

Mirrativ

2026年12月期 第2四半期(中間期) 決算説明資料

2026.8.14 株式会社ミラティブ (東証グロース: 472A)



MISSION

わかりあう願いをつなごう

VISION

好きでつながり、
自分の物語が生まれる居場所
ナ ラ テ イ プ



- 1 2026年12月期第2四半期(中間期) 決算概要
- 2 2026年12月期 通期連結業績予想(期初から変更なし)
- 3 会社概要
- 4 成長ストーリー

APPENDIX

1 2026年12月期第2四半期(中間期) 決算概要

2026年12月期上期決算サマリー

Mirrative

売上高

38.2億円

売上高成長率
(対前年同期)

+12.6%

営業利益

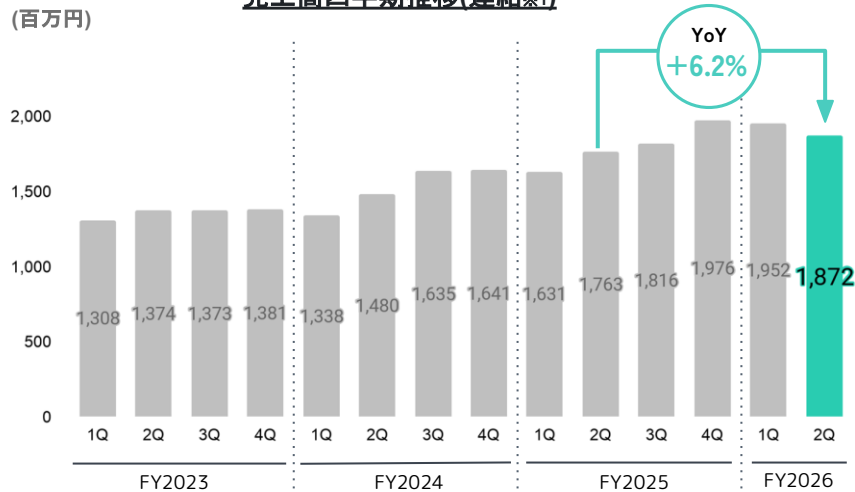
4.85億円

営業利益率

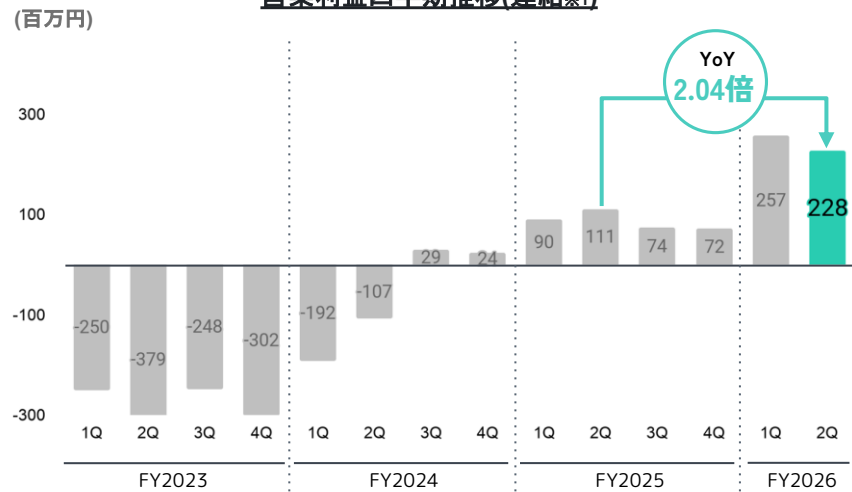
12.7%

- ・ 26年上期売上高は38.2億円と前年同期比+12.6%。2Q売上は下振れもボラティリティの範囲内と認識
- ・ コスト改善は引き続き順調で、上期営業利益は4.85億円(前年同期比で2.4倍)を達成

売上高四半期推移(連結※1)



営業利益四半期推移(連結※1)



※1. FY2024までは単体ベース、FY2025より連結ベース

Mirrativ課金売上・広告売上共に想定を下回り、2Q売上高は下振れ。ただし下期偏重の構造の中ではボラティリティの範囲内と認識。上期の各段階利益については順調に進捗

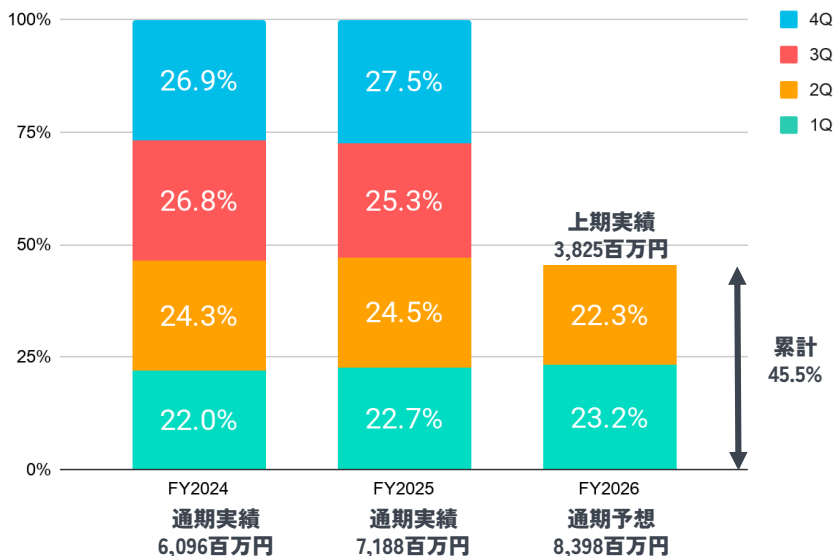
第2四半期連結業績サマリー※1

単位(百万円)	FY2025 Q2	FY2026 Q2	対前年同期比	FY2025 Q2累計	FY2026 Q2累計	対前年同期比	FY2026 通期業績 予想	進捗率
売上高	1,763	1,872	+6.2%	3,395	3,825	+12.6%	8,398	45.5%
売上総利益	562	698	+24.1%	1,073	1,418	+32.1%	3,184	44.5%
営業利益	111	228	+104.2%	202	485	+140.0%	1,109	43.8%
(調整後営業利益)	102	228	+124.1%	181	485	+167.7%	1,109	43.8%
経常利益	91	214	+134.4%	178	453	+154.2%	1,036	43.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	90	199	+119.8%	177	422	+138.9%	962	43.9%

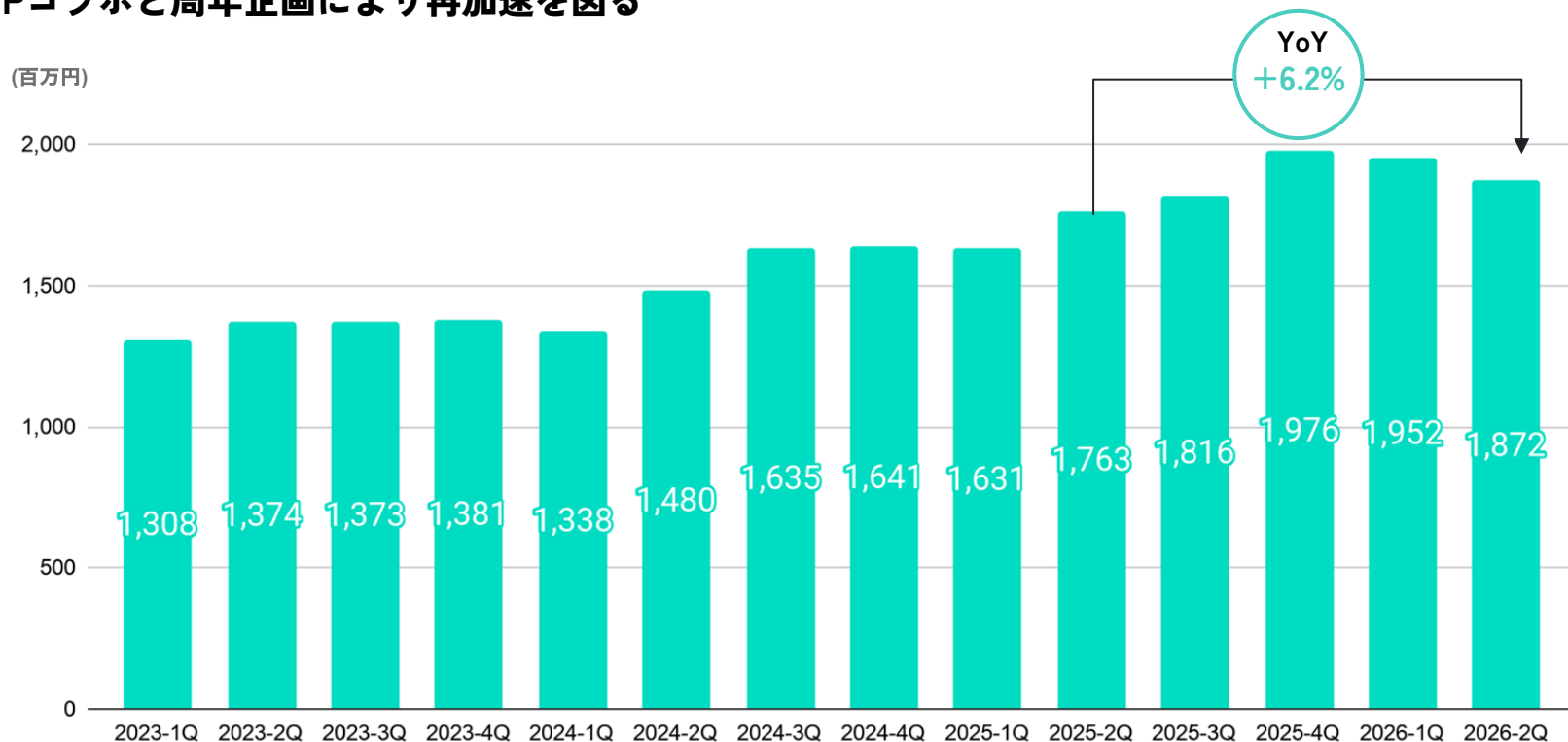
※1. 2026年2月13日に開示した連結業績予想を記載しております ※2. 調整後営業利益は上場準備等で発生する一過性の費用等について除外。また、租税公課のうち法人事業税にかかる外形標準課税部分については、2025年12月期第4四半期から適用された外形標準課税適用法人税率が2025年第1四半期から適用されたものと仮定して、2025年各四半期に按分。2026年度は現時点では調整後営業利益と営業利益は同じ値

(参考)業績予想に対する進捗状況(連結※1)

上期売上の進捗率は45.5%と過去2期の上期構成比（46～47%台）を若干下回るが、下期のイベント需要・11周年企画・IPコラボ等により、引き続き通期予想の達成を目指す

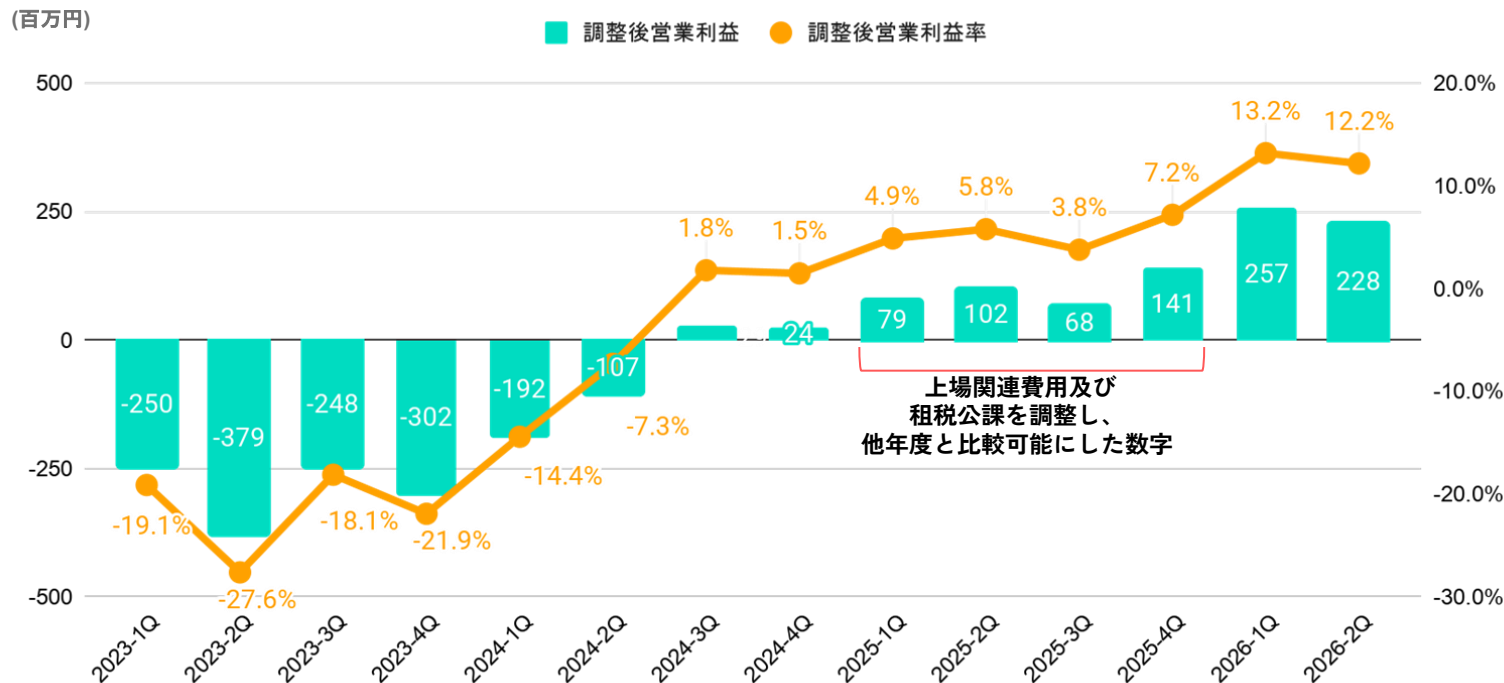


2Qは前年同期比+6.2%。Mirrativ課金売上・広告ともに想定を下回ったことが要因。下期は季節イベント・IPコラボと周年企画により再加速を図る



上場関連費用を除いた調整後営業利益※₁(率)四半期推移(連結※₂)

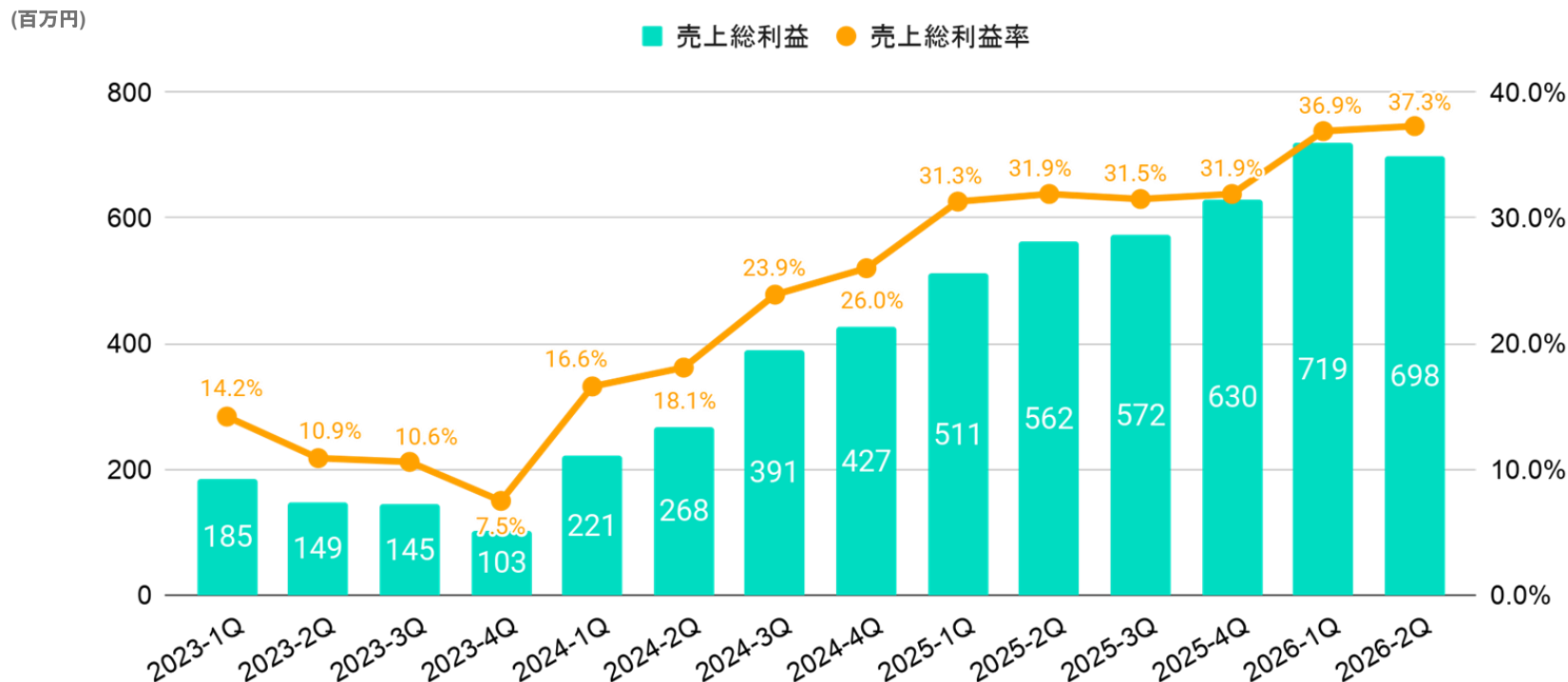
26年2Qの調整後営業利益は2.28億円・利益率12.2%と2Qとして過去最高。構造的な収益性改善により、2四半期連続で二桁利益率



※1. 調整後営業利益は上場準備等で発生する一過性の費用等について除外。また、租税公課のうち法人事業税にかかる外形標準課税部分については、2025年12月期第4四半期から適用された外形標準課税適用法人税率が2025年第1四半期から適用されたものと仮定して、2025年各四半期に按分
2026年度は現時点では調整後営業利益と営業利益は同じ値 ※2. FY2024までは単体ベース、FY2025より連結ベース

売上総利益(率)四半期推移(連結※1)

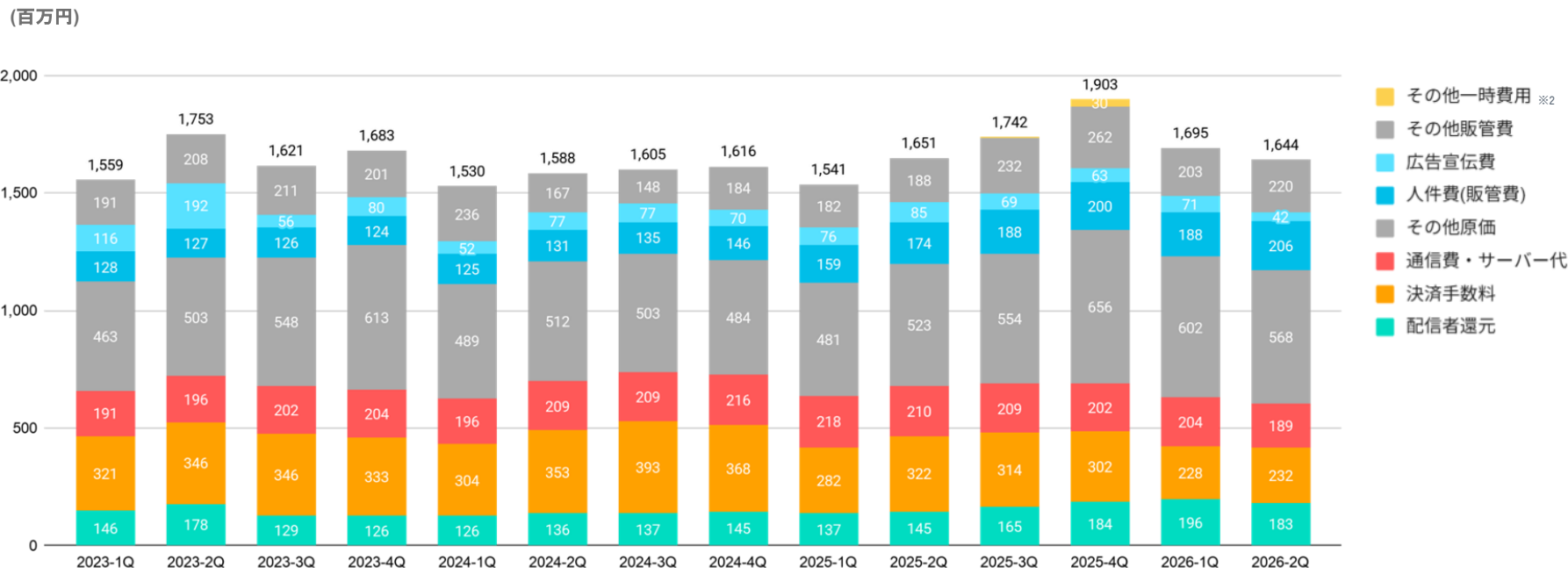
売上総利益については前四半期比では微減も、売上総利益率は過去最高を更新



※1. FY2024までは単体ベース、FY2025より連結ベース

売上原価＋販管費内訳四半期推移(連結※1)

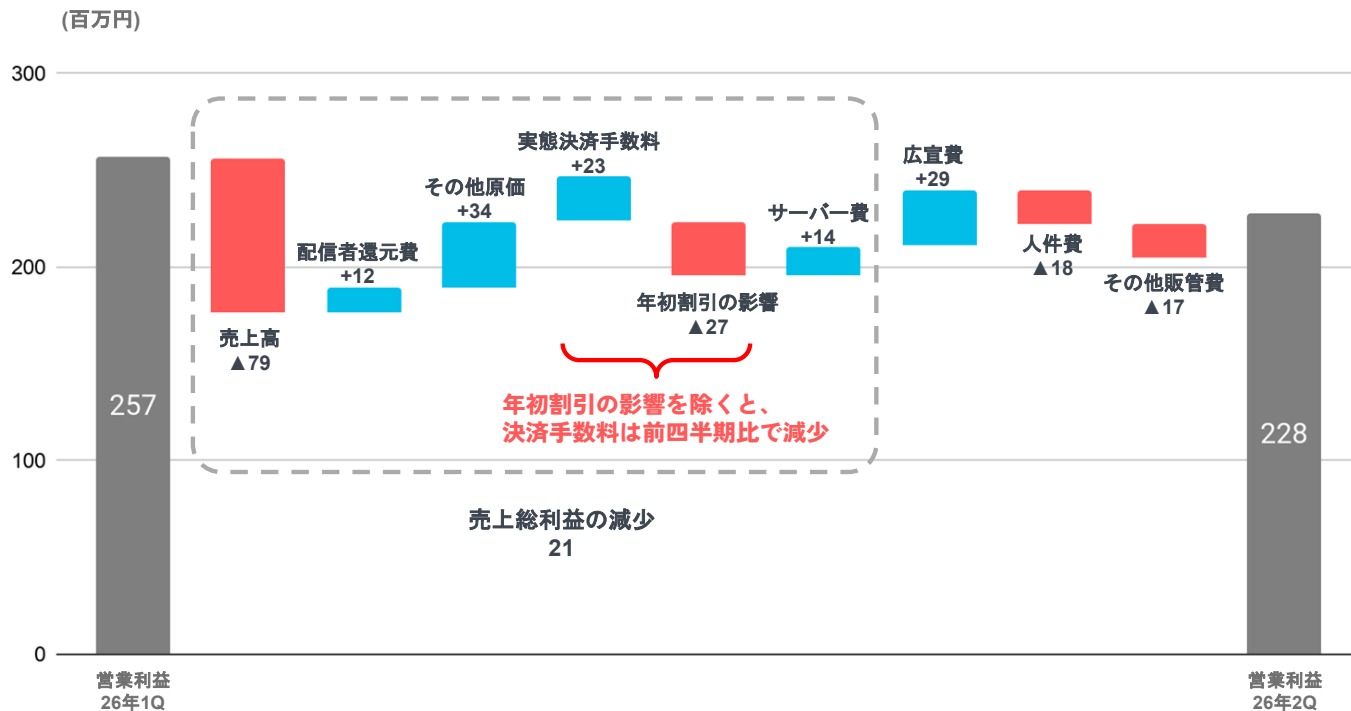
2Qは主要コストの低減が継続し、前年同期比で売上高は成長の一方、売上原価・販管費合計は微減。
決済手数料の前四半期比の微増は、決済PFの年初割引がなくなったことが大きな要因



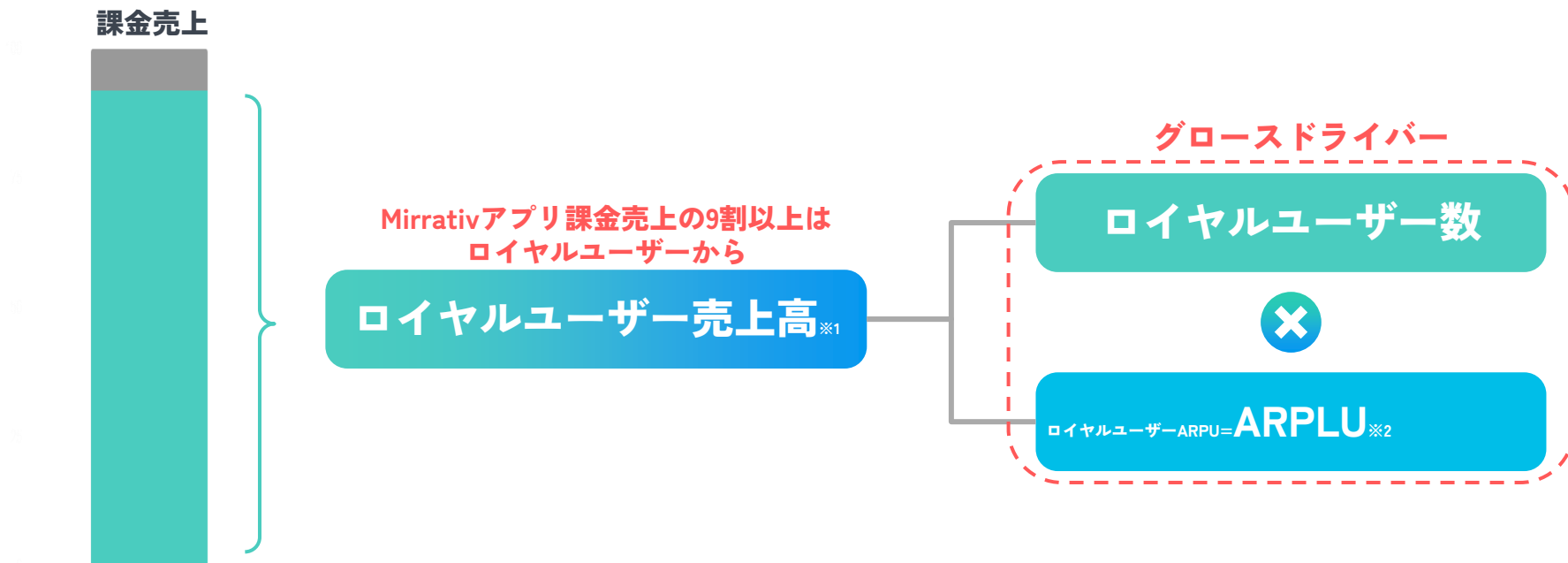
※1. FY2024までは単体ベース、FY2025より連結ベース

※2. その他一時費用には、上場準備等で発生する一過性の費用を含んでおります。本ページにおいては2025年度の外形標準課税については按分を行わず第4四半期のその他販管費に計上されています

2Qの営業利益は2.28億円と前四半期比▲0.28億円。減収に伴う売上総利益の減少に加え、1Qに計上されていた決済PFの年初割引(約27百万円)がなくなったことが主因



「コミュニティ型ライブ配信サービス」として(Mirrativアプリ)課金売上の9割以上を占めるロイヤルユーザーからの売上高を重視し、特にロイヤルユーザー数を重要指標としている



※1. ロイヤルユーザー：課金額が月額10,001円以上の有償コイン消費ユーザー

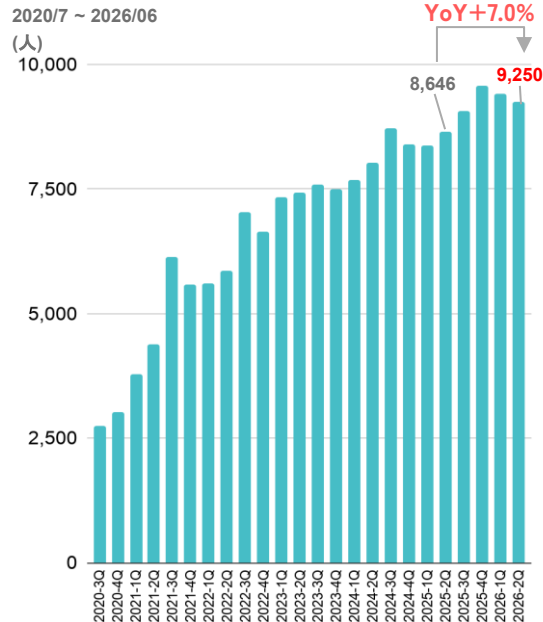
※2. ARPLU (Average Revenue Per Loyal User) = ロイヤルユーザーにおける課金売上 ÷ ロイヤルユーザー数

ロイヤルユーザー数は前四半期比では微減も、2Qとして過去最高

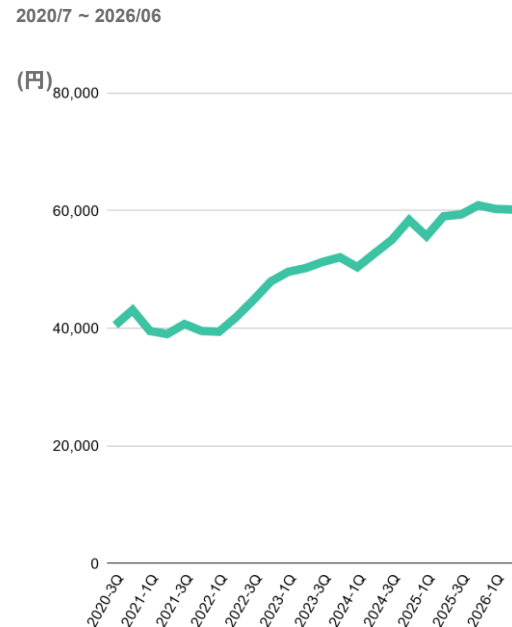
月次ARPPU(四半期平均) ※1



月次ロイヤルユーザー数(四半期平均) ※2



月次ARPLU(四半期平均) ※3



※1. ARPPU (Average Revenue Per Paid User) = Mirrativアプリ課金売上 ÷ 有償コイン消費ユーザー数

※2. ロイヤルユーザー：課金額が月額10,001円以上の有償コイン消費ユーザー

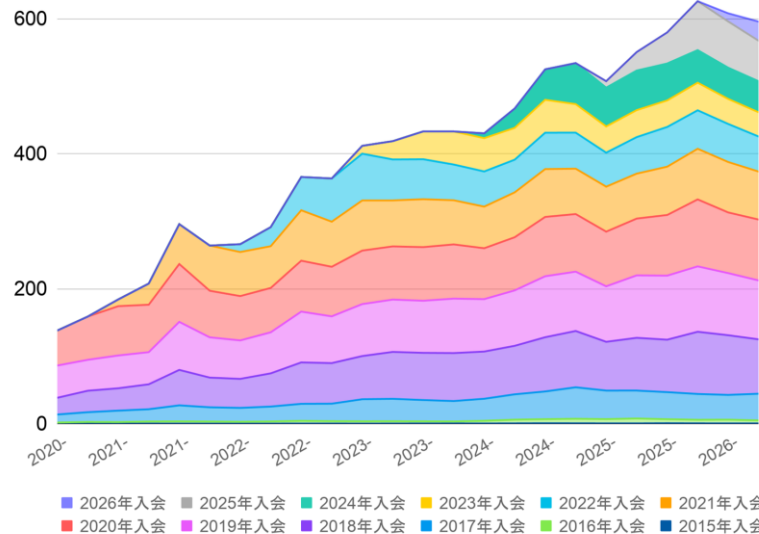
※3. ARPLU (Average Revenue Per Loyal User) = ロイヤルユーザーにおける課金売上 ÷ ロイヤルユーザー数

※4. 他社開示資料より。他社は視聴者がライブ配信中に配信を応援するために使用するアイテムの販売のみであると当社では認識。これに対し、Mirrativは、配信を応援するためのギフトに限らず、配信者と視聴者双方がエモモ等のアイテムを獲得できるギフトガチャや、配信者のゲーム攻略を助けるライブゲームギフト等、多様なギフトの目的を用意することによりギフト（コイン）販売の機会を多様化している

Mirrative課金売上の下振れに伴う減少はあるが、過去に入会したユーザーの売上が積み上がり続ける構造に大きな変化はない

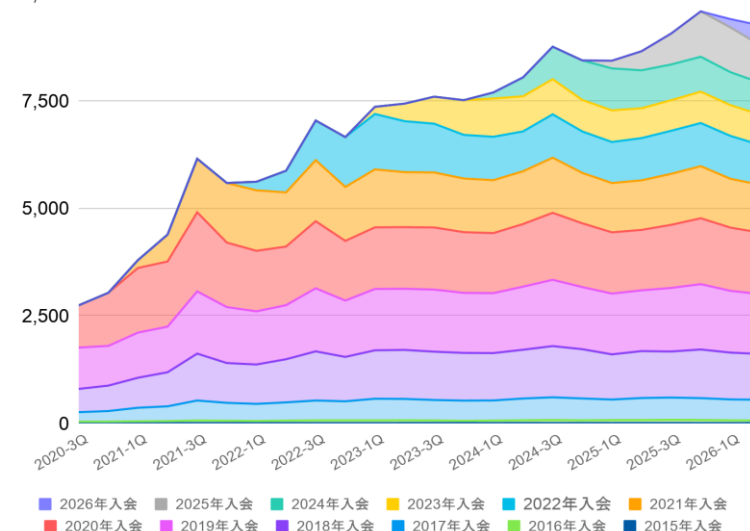
入会年度別月次課金売上高(四半期平均) ※1 ※2

(百万円)



入会年度別月次ロイヤルユーザー数(四半期平均) ※1 ※3

(人)

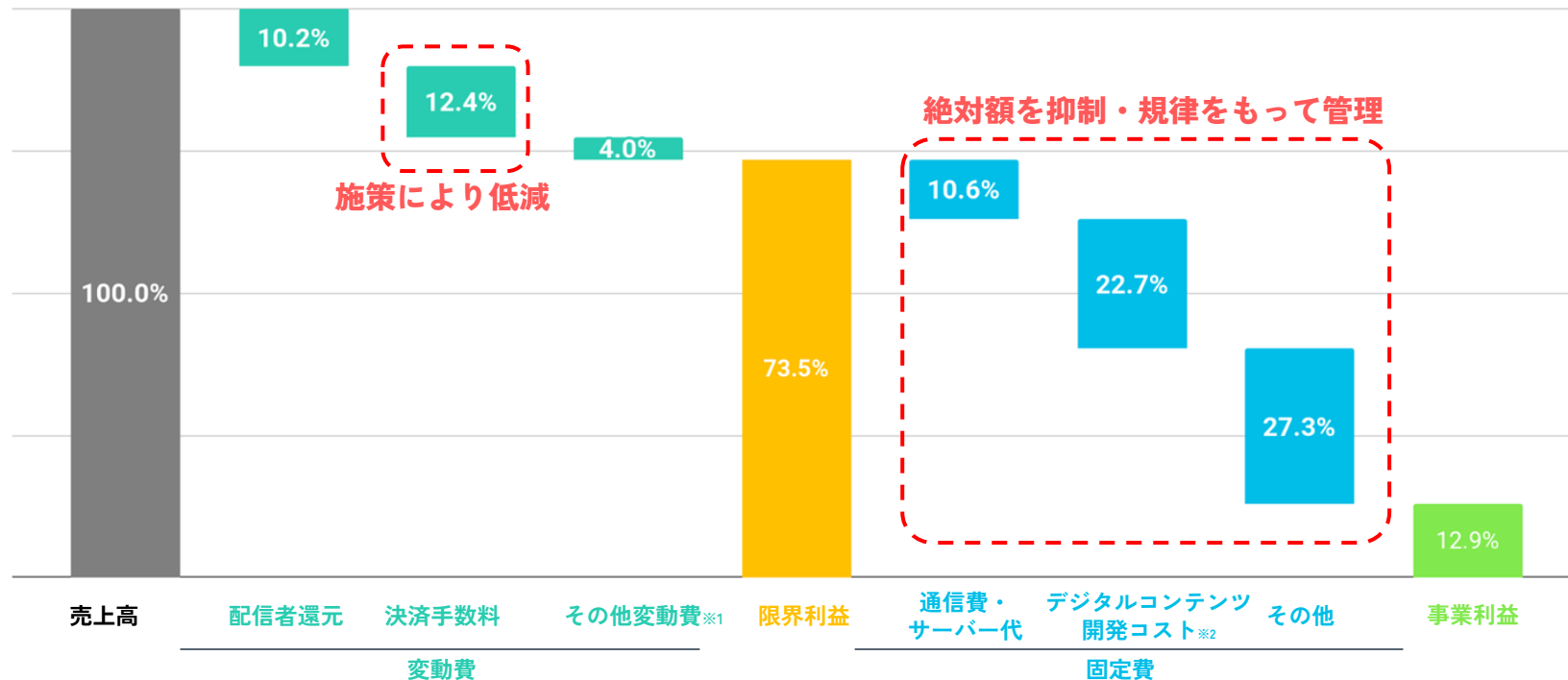


※1. データ期間：2020/7～2026/06

※2. 当該図における月次課金売上高は会計上の繰延等による調整前の社内管理数値

※3. ロイヤルユーザー：課金額が月額10,001円以上の有償コイン消費ユーザー

限界利益率70%を超える事業となっている

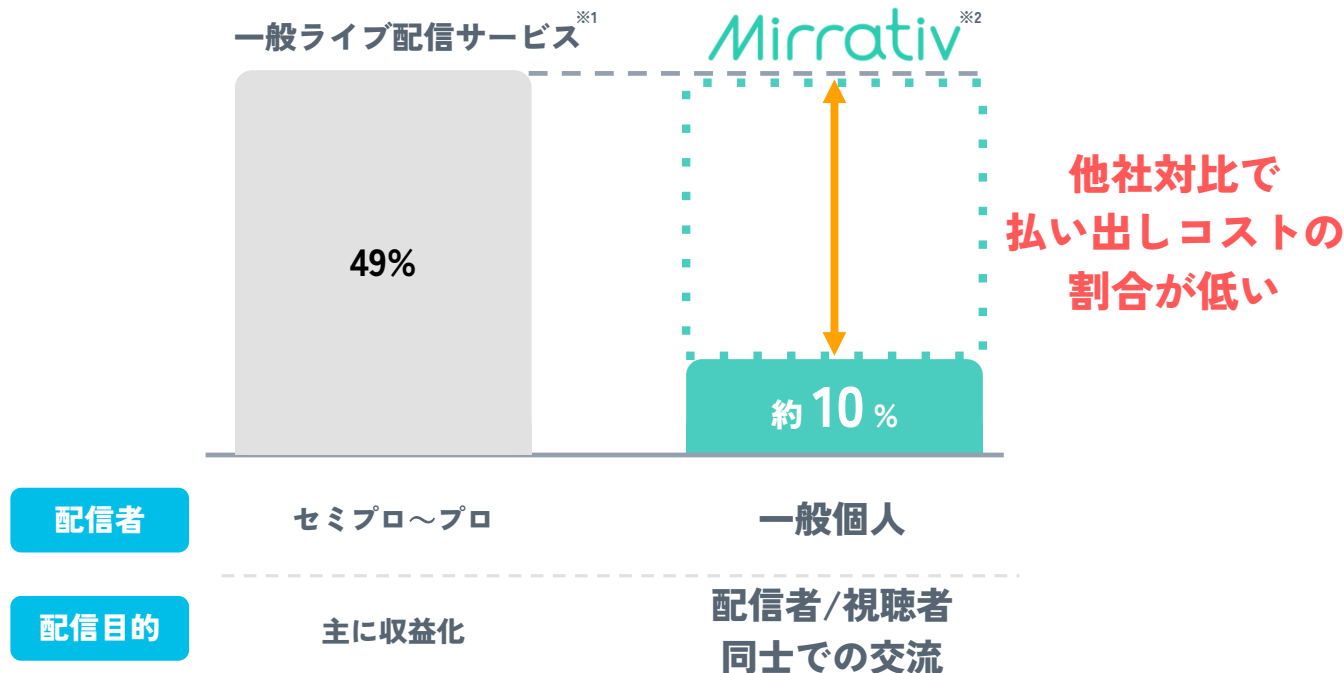


※1.その他変動費は音源関連の著作権関連費用と広告原価のみ計上。それ以外のエモモ(3Dアバター)のIPコラボ時のRSやライブゲーム開発RS等の一部のコンテンツの売上高に運動するものは含まない

※2. デジタルコンテンツ開発コストは、Mirrativeアプリにおける売上原価の一部 (QA費用、アバター製作費、業務委託費、人件費)、ライブゲームにおける売上原価の一部 (通信費、開発費、運営費、RS費用、QA費用)、販管費の一部 (給与手当、雑給与、人材派遣料、販促費、研究開発費) を含む。またデジタルコンテンツ開発コストに含まれる人件費等はプロジェクト稼働状況等に照らし合わせ、合理的に算定

(参考)配信者への払い出し水準比較

Mirrativの配信者の多くは収益化ではなく配信と交流を楽しむことが目的のため、全ユーザーで平均すると配信者への払い出しコストの割合が低い構造。その分をデジタルコンテンツに一定の規律のもと投資



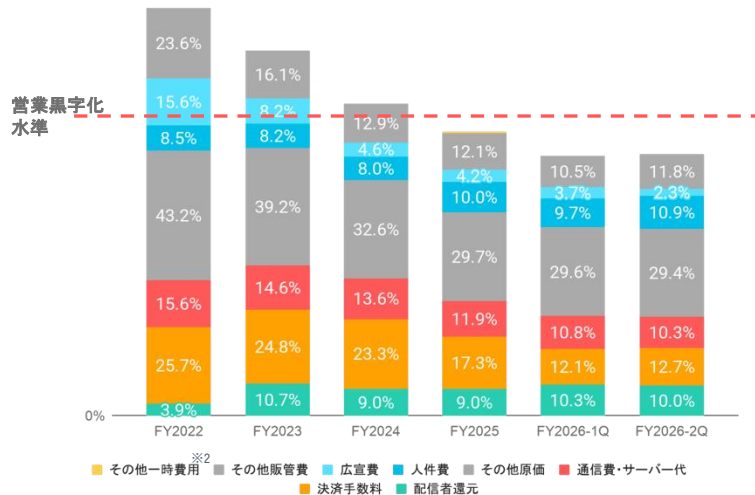
※1. 他社に関する記載は各社開示資料をベースとして作成

※2. Mirrativ: FY2026 2Qにおける売上高に対するクリエイター向けRS比率（売上原価の一部）

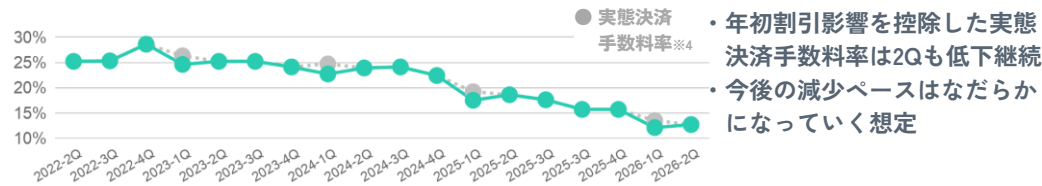
コストKPIサマリー(単体)

決済手数料率は2Q12.7%と年初割引控除した実態決済手数料率で過去最低水準で推移し、コスト削減は順調に進捗。サーバーコスト・開発コストも規律をもった管理を継続し、限界利益率の高い収益構造を維持

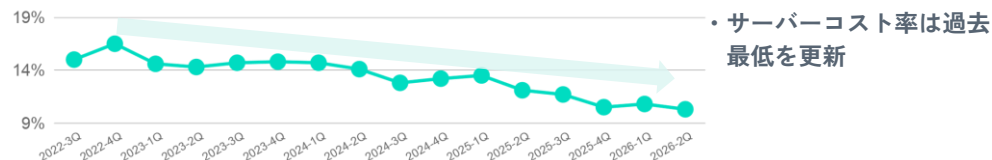
マージン改善推移 ※1



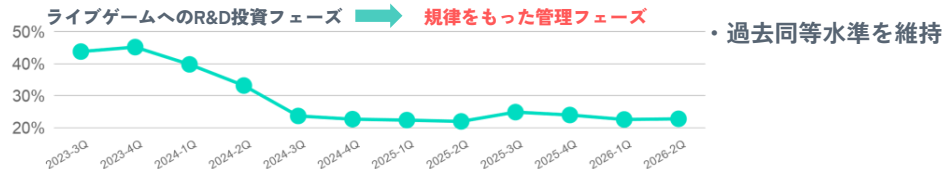
決済手数料率推移 ※4



サーバーコスト率推移



デジタルコンテンツ開発コスト ※3 率の推移



※4. 毎年1Qは決済PFの年初の割引の分だけ決済手数料率は減少。グレーの点線は割引分戻入れ後の実態決済手数料率

YouTubeやTwitchで配信を行う個人・中小規模VTuber・ストリーマー領域の新規事業はまずBtoBにおいて順調に進捗

BtoBの取り組み

グループの営業基盤・ゲーム業界クライアント接点を生かした
BtoBの事業立ち上げは順調に進捗

ぶい♡きやす

(株式会社アイブレイド運営)

- ・登録VTuber数は1,800名を突破
- ・継続的な案件獲得を実施



(株式会社キャスコード運営)

- ・YouTube/Twitchの月間15,000人の
アクティブ配信者数
- ・ミラティブのコミュニティノウハウを
生かした広告商品を連続リリース済み

BtoC・BtoBtoCの取り組みは
継続的にR&D中

行動指針に「with AI」を追加し、AIを前提にした組織化を推進。次のフェーズとして、AI x エンタメ領域の事業探索を始動

全社浸透「AI祭り」→行動指針「with AI」

AIを前提とした組織化は着実に推進

with AI

私たちは、あらゆる活動を、
AIとともにを行うことをまず志向します。

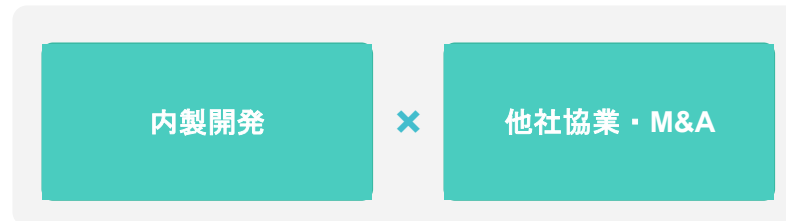
- ・ 行動指針の筆頭に「with AI — あらゆる活動をAIとともにを行うことをまず志向 —」を追加
- ・ 企業活動の中心・OSにAIを置く会社への進化を加速。
AI活用体现度を評価制度にも反映
- ・ (1Qから継続して)全社プロジェクト「AI祭り」を実施。
100件以上の業務改善施策を創出・実行

AI x エンタメ領域の探索

探索領域（例）※1



実行アプローチ



※1. 記載の領域は探索対象の例示であり、個別プロジェクトの存在や進捗を示すものではありません

成長投資を優先する方針は変わらず。ただし株価動向は継続的に注視する

資金源

現預金

営業CF

有利子負債
(銀行借り入れ)

エクイティ調達
(現時点では想定無し)



活用方針

事業投資

- ・新規事業を含めて引き続き規律を持った事業投資を行っていく
- ・特にAIに伴う事業機会の広がりには常に追求する

M&A

- ・積極的に検討を行っていく
- ・方針については次頁

戦略投資・
資本業務提携

- ・M&A以外のオプションとして合わせて検討
(提携を伴うマイノリティ出資、VCへのLP出資等)

株主還元

- ・現時点での方針は変わらず、上記3項目を優先させる
- ・ただし株価状況等を常に注視

M&A・戦略投資でグループジョインしたアイブレイドやキャスコードのシナジー創出が進んでいることを踏まえ、財務規律を重視したうえで、M&Aや戦略投資についてはより積極的に検討を進める

M&Aの主要な方向性

コア領域

① 配信者接点(面)の拡大

- ・ 配信者コミュニティサービス
- ・ 配信者を束ねている会社 (配信PF、配信者事務所、eスポーツチーム、インフルエンサーマーケティング企業等)

② プロダクト/サービスの横展開または垂直統合

- ・ マーチャンダイジング
- ・ fintech
- ・ アセット(3D等)開発の強化等

周辺領域

③ 新しいエンターテインメント領域

- ・ AI関連
- ・ VR/MR関連等

AIによるマーケットの広がりに伴う事業機会逸失を防ぐため、以下も検討

- ・ 戦略投資(資本業務提携)
- ・ VCへのLP出資

2 (再掲)2026年12月期 通期連結業績予想

注)2026年2月13日に開示した業績予想から変更はありません

売上高成長は25年と同等水準で、Mirrativ課金売上が引き続き成長をけん引することを想定。
コスト改善については今期も継続的に推進。新規事業への投資は昨年水準で規律をもって実施をしていく

通期連結業績予想

単位(百万円)	FY2025 通期実績	FY2026 通期予想	増加率
売上高	7,188	8,398	+16.8%
売上総利益	2,275	3,184	+39.9%
営業利益	349	1,109	+217.6%
経常利益	287	1,036	+261.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	739	962	+30.2%

売上高

- ・引き続きMirrativ課金売上が収益の90%以上を占める見込み
- ・例年通り下期に寄る傾向を想定。
特に季節イベントが少ない1Qは対前年4Q比では弱め。
- ・新規事業売上は合理的算定が可能な子会社アイブレイド分のみ計画に織り込み

売上原価・
販管費

- ・Mirrativアプリに関わるコストは昨年と同傾向で低減をしていく想定。
決済手数料率についての減少ペースはなだらかになる見込み
- ・新規事業への投資も現時点計画では昨年と同等水準であり、
規律を保ちながら行っていく

経常利益・
純利益

- ・営業外損益は、昨年同等水準の関連会社に関するのれん償却費や支払利息等の計上を見込む
- ・前期に計上を開始した繰延税金資産と今期の予想課税所得に基づく計上見込み額との差額を、法人税等調整額として計上を見込む。

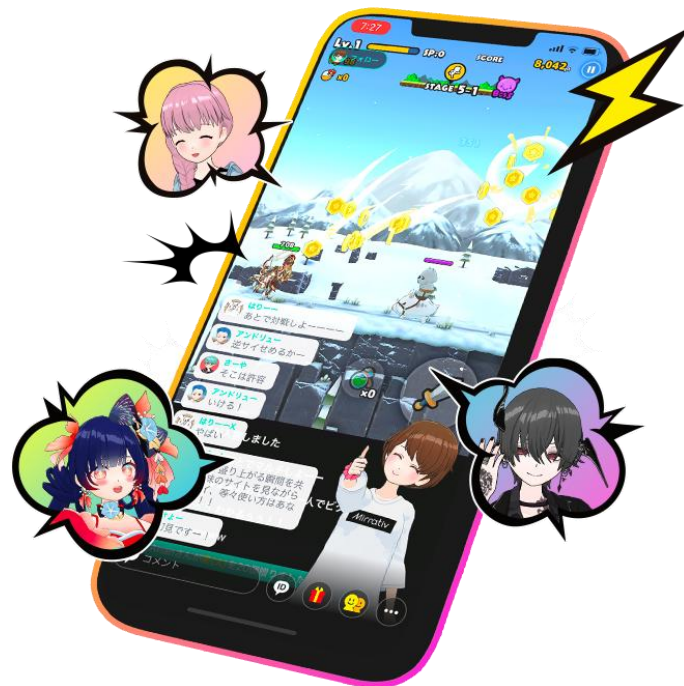
3

会社概要

「スマホ1台でゲーム実況・生配信ができるアプリ」として、日本最大級の配信者数※1を保有。
ロングテールx高熱量のコミュニティ内でユーザー間の交流や推し活が行われるプラットフォーム

基礎情報

会社名	株式会社ミラティブ
設立経緯	2015年8月に株式会社ディー・エヌ・エーにおいてライブ配信プラットフォーム「Mirrativ」アプリをリリース。2018年2月に当社設立後、株式会社ディー・エヌ・エーよりミラティブ事業を承継し事業開始
代表者	赤川 隼一
本社所在地	東京都目黒区目黒二丁目10番11号
従業員数	151人（2025年12月時点、連結ベース）
関係会社	株式会社アイブレイド（100%） 株式会社カスコード（39.8%）
資本金	566百万円
上場市場	東証グロース市場(472A)
事業内容	ライブ配信プラットフォーム「Mirrativ」運営及び ストリーマープラットフォーム事業



※1. 足元の累計配信者数570万人という実績および国内に展開する配信プラットフォーム事業者のR資料に基づく当社見解（2025年12月時点）

わかりあう願いをつなごう

「わかりあうこと」はすべての人の普遍的な願い、
「なかなかわかりあえないこと」は人類の永遠の課題だと
ミラティブでは考えています。

話すこと、創ること、動くこと。

人のあらゆる営みには「こうありたい」「こうあってほしい」という
意志と願いが宿っていると信じます。

すべてのコミュニケーションはその願いの発信です。

それは時に届かず、マクロでは戦争が、ミクロでは孤独や自殺といった課題が、
このテクノロジーが発達した現代でも残り続けています。

それぞれの願いを、尊重しながら、お互いにつないでいくこと。
そしてわかりあえる瞬間を少しでも増やすこと。

その連続で、世界中の幸せの総量をもっと増やしていける—
私たちはそう信じています。



好きでつながり、 自分の物語が生まれる 居場所

ナラティブ

誰かと好きなものをわかちあえた時、わかりあえた時の喜びや高揚は、かけがえのないものです。
自分と同じゲーム・同じコンテンツ・同じキャラクターetcを好きな人が、世界のどこかにきっといる—

そんな願いがつながり、人と一緒に体験したり、語りあったりする瞬間、
そこには自分だけの思い出や物語＝ナラティブが生まれます。
物語のある場所、そこは人が生きる上で大切な居場所になっていくと私たちは信じています。

ミラティブは、今までもこれからも、世界中の人ひとりひとりが、自分の「好き」でつながり、
自分だけの物語が生まれる居場所を創っていきます。

行動理念

わかりあおうとし続ける

全社の行動理念の体現方針として10か条の「わかりあおうとし続けるガイドライン」を以下のように策定。

- ① 相手を想像する
- ② 前提を揃える
- ③ 伝わる形にする
- ④ 発信する
- ⑤ 最後まで聞く
- ⑥ いちど受け止める
- ⑦ 対話を繰り返す
- ⑧ 確認する
- ⑨ 直接話す
- ⑩ わかりあえなさもわかりあう

高難易度の市場開拓型プロダクトを成長させてきた経験豊富な経営チームが今後も成長にコミット

代表取締役 CEO



赤川 隼一

慶應義塾大学卒業後、DeNAに入社。2012年4月より最年少執行役員として海外事業、ブラウザゲーム事業等を管轄した他、戦略投資や複数の新規事業立ち上げを担当。2018年2月に、DeNAよりMirrativ事業をMBOしミラティブを創業

取締役 CFO



須山 敏彦

東京大学経済学部卒業後、ローランド・ベルガー、DeNAを経て起業。その後複数のスタートアップの取締役を経て、2021年にミラティブへ参画し、コーポレート機能を幅広く管掌

常勤監査役

鈴木 信裕

公認会計士。あずさ監査法人にて監査業務等に従事後、企業の内部統制構築支援、上場準備支援等を経て(株)和心等で常勤監査役を歴任。2024年にミラティブに参画

社外取締役



青木 耕平

株式会社クラシコム代表取締役社長。2006年、実妹である佐藤友子とクラシコム共同創業。2007年より北欧ビンテージ雑貨をEC販売する「北欧、暮らしの道具店」を開業

社外取締役



宇佐美 進典

早稲田大学商学部卒業後、トーマツコンサルティング(現:デロイトトーマツ)に入社。1999年にアクシブドットコムを創業。2014年に東証マザーズ上場、2015年東証一部上場。2019年に電通100%子会社であるCCIと経営統合し、CARTA HOLDINGSの代表取締役会長に就任、2025年NTTドコモからTOBを受け、代表取締役を退任。2026年にサポーターズホールディングスを設立し代表取締役就任、サポーターズを買収

非常勤監査役

秋元 芳央

2000年4月弁護士登録。あさひ法律事務所(現・西村あさひ法律事務所)、グリー(株)の企業内弁護士を経て、英和法律事務所パートナー。2020年にミラティブに参画

非常勤監査役

内藤 陽子

公認会計士としてEY新日本監査法人にて監査業務に従事。その後、フリー(株)にて取締役監査等委員を務めた後、(株)NearMeの経営管理に従事。2024年にミラティブに参画

日本最大級^{※1}のゲーム配信アプリ「Mirrativ」

日本最大級の配信者数を保有

配信者への「ギフト」中心のユーザー課金モデルで、
ロイヤルユーザー^{※2}が積み上がる構造

月間アクティブユーザー^{※3}の約30%^{※4}^{※5}が配信者

配信者同士がSNSのように交流

高利益率体質

- ① 配信者同士で相互に視聴やギフトするため、
配信者還元コストが売上の10%程度^{※6}
- ② ユーザー獲得をゲーム企業との連携で行える



※1. 足元の累計配信者数570万人および国内に展開する配信プラットフォーム事業者のIR資料という実績に基づく当社見解（2025年12月時点）

※2. 月額10,001円以上課金するユーザー

※3. 月間アクティブユーザー：月に一度以上アプリを起動したユーザー数（同一端末で複数アカウントのログインがある場合には1と集計）

※4. 2025年12月時点の月次数値

※5. 配信者比率 = 配信者数 ÷ MAU（Monthly Active Users, 月あたりのアクティブユーザー数）

※6. FY2026 Q2におけるミラティブ事業売上高に対するクリエイター向けRS比率10.0%より記載

Mirrativアプリは月間アクティブユーザーの約30%が配信者という希有な双方向型のプラットフォーム

Platform KPI ※1

110,000+
配信者数

30.3%
配信者比率

30,000+
月間課金ユーザー
数※3

18,000円+
ARPPU ※4

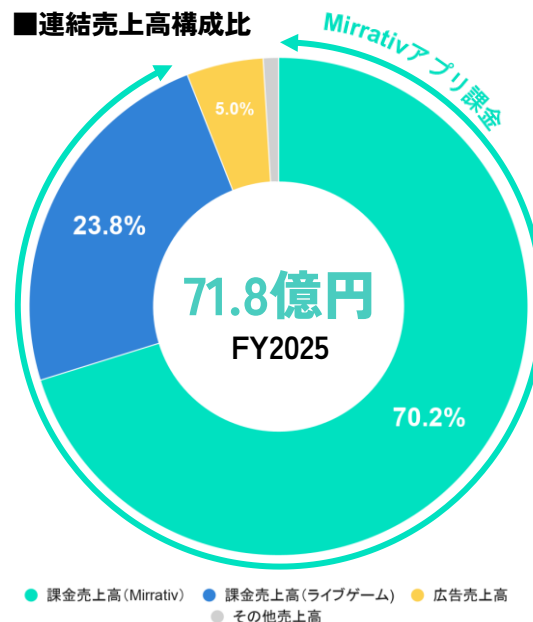
約9,000
月間ロイヤル
ユーザー数 ※2

58,000円+
ARPLU ※5

93.0分
1日あたり
平均配信時間 ※6

101.6分
1日あたり
平均視聴時間 ※7

Financials



38.2億円
売上高
FY2026 2Q累計

12.6%
売上高成長率
(FY2025 2Q累計
→2026 2Q累計)

12.7%
営業利益率
FY2026 2Q累計

※1. 2025年の月次平均値

※2. ロイヤルユーザー：課金額が月額10,001円以上の有償コイン消費ユーザー

※3. 課金ユーザー：有償コインを消費したユーザー

※4. ARPPU (Average Revenue Per Paid User) = 課金売上 ÷ 有償コイン消費ユーザー数

※5. ARPLU (Average Revenue Per Loyal User) = ロイヤルユーザーにおける課金売上 ÷

ロイヤルユーザー数

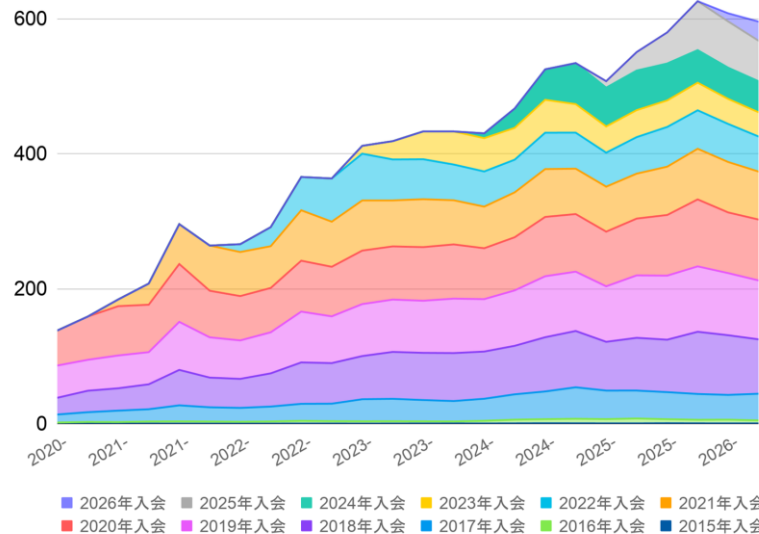
※6. 1日あたり平均配信時間：サービス内で配信したユーザーの1日あたりの平均配信時間

※7. 1日あたり平均視聴時間：サービス内で配信を視聴したユーザーの1日あたりの平均視聴時間

ユーザーにとって「居場所」になることで、ユーザー登録後長年に渡って売上が積み上がり続ける事業構造の構築に成功。課金売上高全体の90%以上※1を占めるロイヤルユーザー※2数は重要KPI

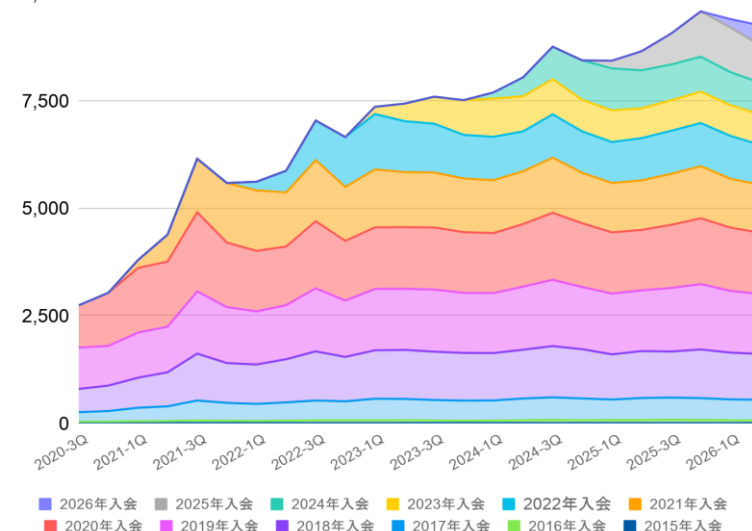
入会年度別月次課金売上高(四半期平均) ※3 ※4

(百万円)



入会年度別月次ロイヤルユーザー数(四半期平均) ※2 ※3

(人)



※1. 2026年度第2四半期

※2. ロイヤルユーザー：課金額が月額10,001円以上の有償コイン消費ユーザー

※3. データ期間：2020/7～2026/06

※4. 当該図における月次課金売上高は会計上の繰延等による調整前の社内管理数値

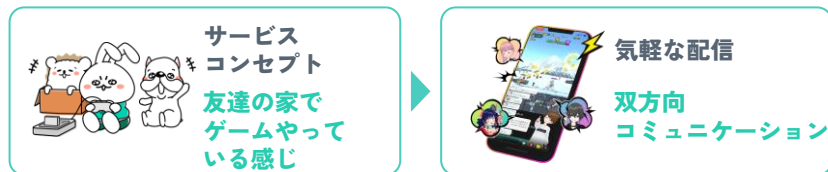
スマホ1台・数タップするだけでゲーム配信ができるコミュニケーションサービス



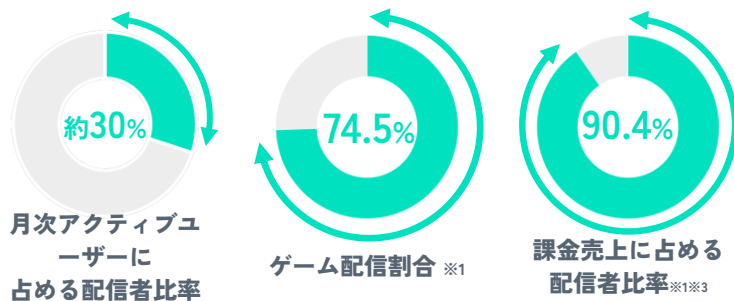
共通の趣味＝ゲームを通じて、人と人とがつながる【居場所】を創造

「友達の家でゲームやっている感じ」がコンセプトで、ゲーム配信がメイン。配信者がアクティブユーザーの30%を占め、課金売上の大部分は「配信者属性のユーザーから別配信者へのギフト」＝双方向性の高い事業

サービスコンセプト



アプリの特徴



※1. 2025年12月時点
※2. 配信者比率 = 配信者数 ÷ MAU (Monthly Active Users, 月あたりのアクティブユーザー数)
※3. 課金売上に占める配信者率: 課金売上のうち、配信経験のあるユーザーによる課金売上の割合

配信者の想定ペルソナ

ペルソナ	人数	課金額	収益化意向
 ゲーム配信中心 ミラティブでゲーム仲間ができ、お気に入りゲームの配信を楽しむ層			--
 ミラティブコンテンツ中心 エモモ(3Dアバター)配信やライブゲームなどミラティブコンテンツを中心に楽しみ、仲間同士で相互にギフトをしあう層			--
 スターズ(予備軍) 配信によって収益化していきたい層			

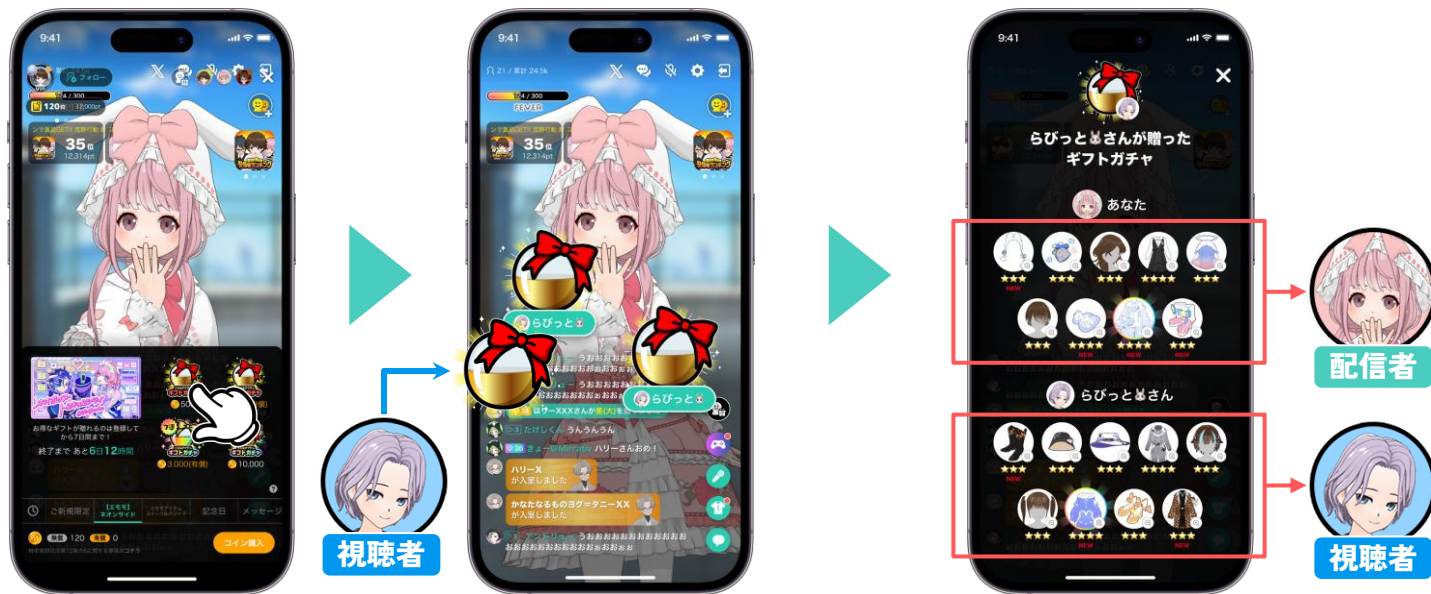
収益化を目的とする配信者が少ないため、
配信者還元コストが低くなる事業構造

視聴者は配信に対してギフトを贈る。贈られたギフトは配信を盛り上げるとともに、コインとして配信者に配布され、別の配信にギフトされる。配信者がギフトを通して配信を楽しみ続ける構造となっている



※1. 一定の基準を満たし、当社の審査を通過した配信者のみ

Mirrativのギフトは配信を盛り上げるだけでなく、配信者と視聴者双方が3Dアバターを獲得できるなど、配信者と視聴者が楽しめるデジタルコンテンツの入り口にもなっている



3Dアバターが排出される「ギフトガチャ」を
視聴者がコインを消費して贈ると、

受け取った配信者と贈った視聴者が
3Dアバターを獲得できる

デジタルコンテンツとギフトの詳細

Mirrative

視聴者が贈れるギフトの種類は多数存在し、ギフトと連動した3Dアバターやランキングイベント、ライブゲームなどのデジタルコンテンツがプラットフォーム上に豊富に用意されている

様々なギフト体験



定番ギフト/メッセージギフト

配信を盛り上げる
豊富なアイテム



ギフトガチャ

配信者と視聴者それぞれが当たった
アイテム(3Dアバターなど)を獲得可能



ランキングイベントギフト

配信内のギフトポイントを集計



ライブゲームギフト

配信者のゲーム攻略を応援

デジタルコンテンツ



エモモ

Mirrative内で使える3Dアバター。
誰でもアバター配信が可能。
ギフトガチャ等で入手可能



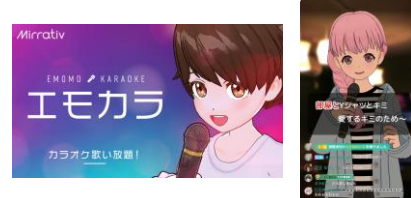
ライブゲーム

配信者がライブ配信しながら
視聴者と一緒に遊ぶ、
Mirrativeオリジナルのゲーム機能



ランキング

配信者間で競い合い限定アイテムを獲得。
視聴者として推しの配信者を応援



エモカラ

アバターカラオケ配信

ユーザーの流入から継続まで

Mirrativ

ユーザーがMirrativを始めるきっかけは、好きなゲームや気軽な配信意欲から。推しの配信者を見つけ、仲良くなることでサービスの利用を継続する



気軽にゲーム配信をしたい
ゲーム友達を作りたい



仲の良い配信者ができる



アバター等、相互にギフトを贈りあう

テクノロジーの進化やメディアの変化により嗜好性が多様化し、誰もが知る「大きな物語」よりも、一人ひとりにとっての「小さな物語」や「自分と推し」との関係が重視・尊重される時代に。

Mirrativは「配信」を通して自分の物語が生まれ、一人ひとりの居場所となるプラットフォーム

マクロトレンド / 社会や嗜好の変化

テクノロジーの進化

高速通信

多数常時接続

インタラクティブ

VTuber

AI

ユーザー行動の変化

UGC文化

推し活

インフルエンサーの
ロングテール化

配信者>

視聴者>



みんなが共感する「大きな物語」から、
コミュニティ内・一人ひとりの「小さな物語」へ

スマートフォン画面の
Mirroring

+

Narrative

||

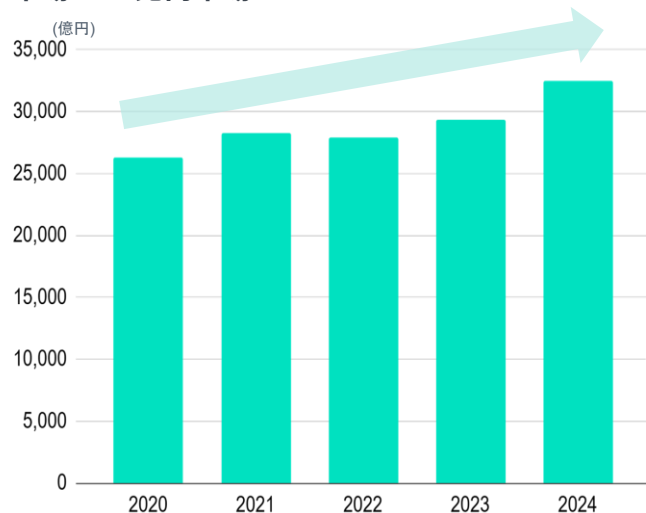
Mirrativ

自分だけの物語 = ナラティブ
が生まれる居場所を提供する

Mirrativはモバイルゲームを媒介に、配信を通じた交流とギフト＝「（自分のためではなく）誰かのためにお金を使う」ことによる楽しさを提供し、巨大な既存のコンテンツ市場を拡張する存在

モバイルコンテンツ市場

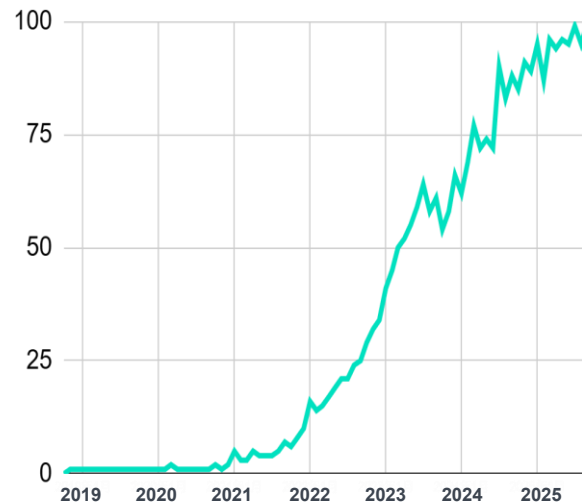
モバイルコンテンツ市場は3.2兆円規模に成長続けており※1※2、今後も拡大を想定※3。配信のきっかけとなるモバイルゲーム市場は1.6兆円市場※1



「誰かのためにお金を使う」
新しい楽しさによる市場の拡張

推し活トレンド

「推し活」の検索ボリューム※4※5の拡大のように、「誰かのためにお金を使う」概念の浸透は進んでいる



※1. 一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム調べより弊社作成

※2. モバイルコンテンツ市場はゲーム・ソーシャルゲーム、動画・エンタテインメント市場、電子書籍市場、音楽コンテンツ市場、その他が含まれる

※3. 過去の市場推移をもとにした弊社見解

※4. Google Trendsのデータ(2018年10月~2025年9月まで)の日本における「推し活」ウェブ検索のトレンド

※5. Google Trendsは調査期間の検索需要の最大値のあった時点を100として、検索需要を比較して0-100で指標化

4 成長ストーリー

注)本資料公開時点では、2025年12月18日上場時に公開した戦略を踏襲しており、
数値の更新のみ行っております

Company Highlights

▶ **1 強固な事業サイクルを構築したコミュニティプラットフォーム**

2 成長戦略

2-1 高エンゲージメントがもたらす安定成長と高い収益ポテンシャルを持つMirrativアプリ

2-2 Mirrativアプリのアセットを活用し、新市場を狙う中長期戦略

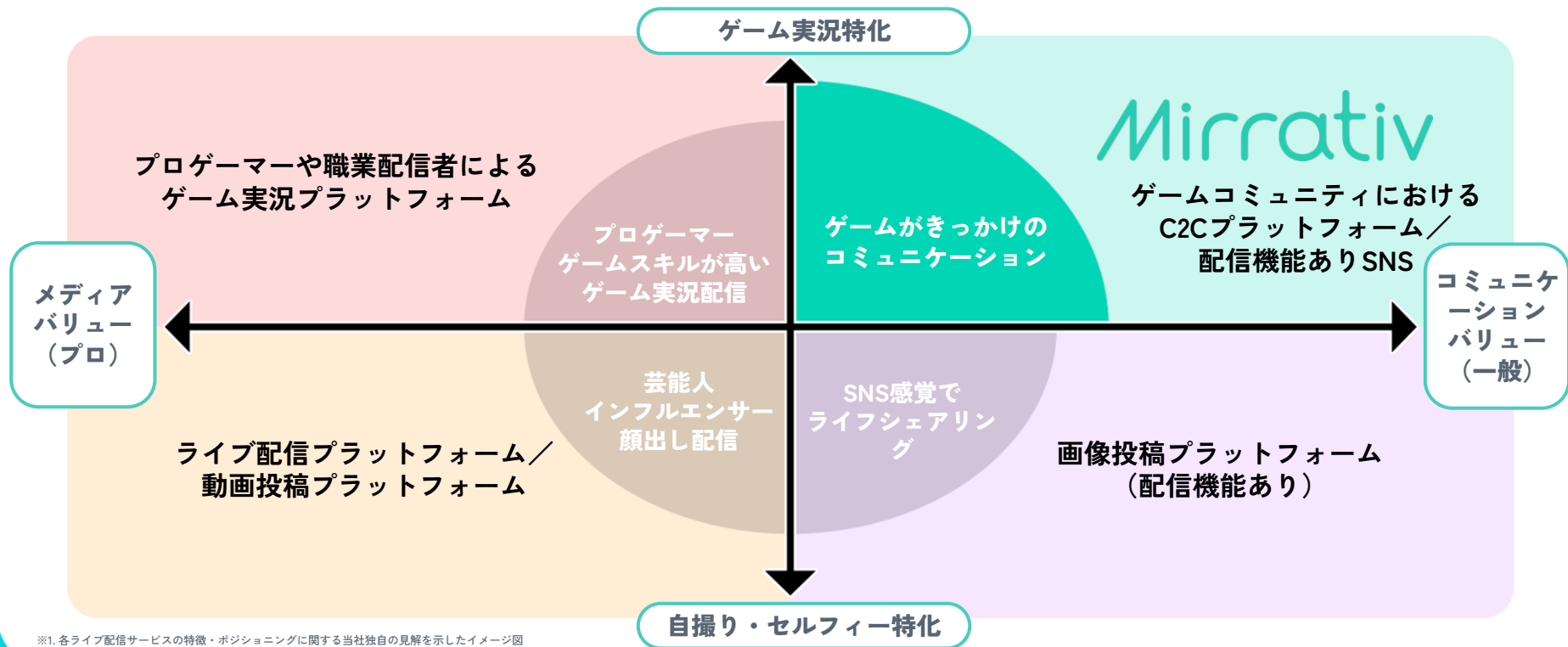
**3 エンタメセクター新市場で安定収益を維持しながら成長投資を行う
希有な財務プロファイル**

Mirrativ

事業の特徴①:ポジショニング

Mirrative

他社ライブ配信サービスとは一線を画したポジショニング※1であり、ゲーム配信を軸にしたコミュニティサービス(SNS)



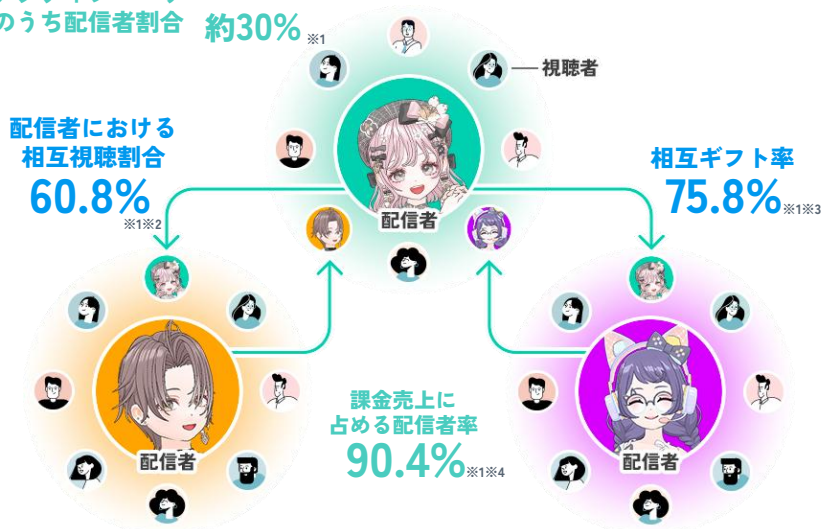
※1. 各ライブ配信サービスの特徴・ポジショニングに関する当社独自の見解を示したイメージ図

事業の特徴②:低い配信者還元コスト構造

Mirrativの配信者の多くは収益化ではなく配信と交流を楽しむことが目的。その結果、全ユーザーで平均すると配信者への払い出しのコスト割合が低いというユニークな構造

双方向性の高いユニークなプラットフォーム

アクティブユーザー
のうち配信者割合 約30% ※1



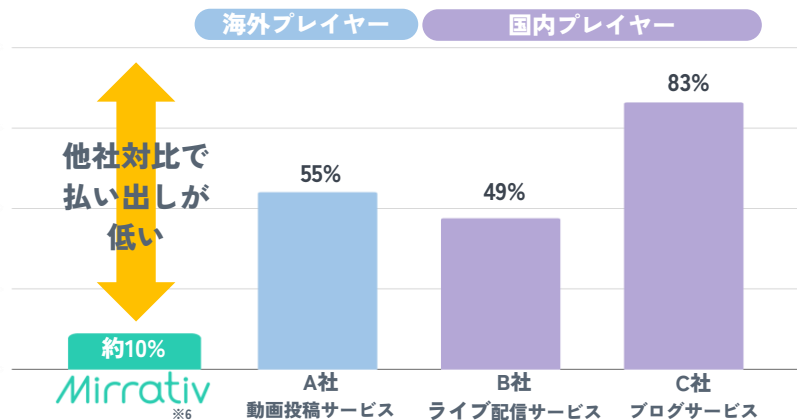
※1. 2025年12月時点

※2. 配信者における相互視聴割合: 配信者側のユーザーが、視聴者側のユーザーの配信を視聴している割合

※3. 相互ギフト率: ①有償コインを消費するギフトをお互いに贈り合ったユーザーのペアが消費した有償コインの総額、②一方通行の有償コインを消費するギフトを送った視聴者と配信者のペアが消費した有償コインの総額の割合から算出 (① ÷ (①+②))

※4. 課金売上に占める配信者率: 課金売上のうち、配信経験のあるユーザーによる課金売上の割合

クリエイターへの還元(払い出し)水準比較 ※5



種類	一般個人	一般個人 ～プロ	セミプロ ～プロ	一般個人 ～プロ
目的	配信者/視聴者 同士での交流	収益化	趣味 ～収益化	趣味 ～収益化

※5. A～C社に関する記載は各社開示資料をベースとして作成

※6. Mirrativ: FY2026 Q2における売上高に対するクリエイター向けRS比率 (売上原価の一部)

事業の特徴③:世界中のゲーム企業とのリレーション 取り組み例:配信&視聴キャンペーン Mirrativ

世界中のゲームパブリッシャークライアントと配信者や視聴者を増やす取り組みを実施。インセンティブをフックにユーザーがMirrativに流入し、そのゲームのコミュニティを形成

一般モバイルアプリゲーム

ミラティブ上で配信・視聴



ミラティブへ遷移



配信時間等の定められた条件を満たすと、

ミラティブ内アイテム

ゲーム内で使える
アイテム

等を獲得

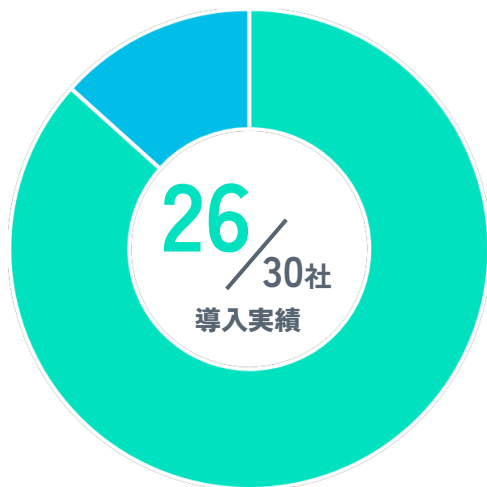
キャンペーン中だけでなく、キャンペーン後も配信やゲームプレイの継続

事業の特徴③:世界中のゲーム企業リレーションと低CAC構造

Mirrativ

コミュニティの力でゲームLTV※1が向上するため、世界中のゲーム会社とのタイアップイベントを実施。
イベントをフックにゲーム経由でユーザーが流入することで低CAC※2構造を実現

トップゲームパブリッシャーとの連携

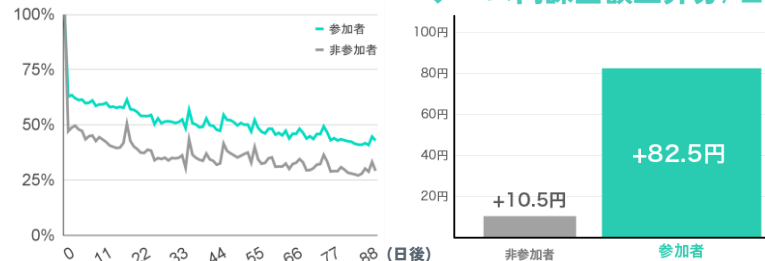


2024年のアプリゲーム売上Top30社※3のうち、
26社がミラティブのイベント施策の導入実績有※4

※1. LTV : Life Time Value ※2. CAC: Customer Acquisition Cost
※3. 出所:ファミ通モバイルゲーム白書2025
※4. 2019年以降ミラティブのイベント施策を導入した実績の有無

Case: Title A ※5

イベント参加者のゲーム継続率 イベント参加による ゲーム内課金額上昇分/日 ※6



コミュニティの力でゲームLTVを向上させることが可能

タイアップイベントを企画し、イベント経由でユーザーが
流入 (Mirrativからの手数料料支払いはなし)

Win-Winの構造で低CACを実現

※5. 同一タイトルにおける2024/12~2025/2における計測でデータを取得
※6. イベント2回における平均値。イベント開始前とイベント中のARPUの差

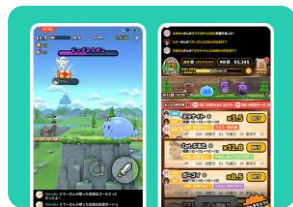
事業の特徴④:高品質なデジタルコンテンツ投資・内部改善

3Dアバターを中心としたデジタルコンテンツ・イベントを提供し、マッチングアルゴリズムを継続的に改善。熱量の高い配信者の体験に向き合い続けた結果、課金KPIは継続的に向上

コンテンツ



高品質なデジコン※1



ライブゲーム



オペレーショナルエクセレンス

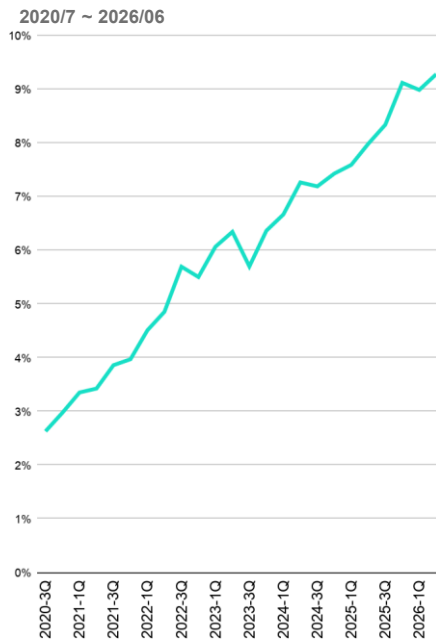


マッチングアルゴリズム改善

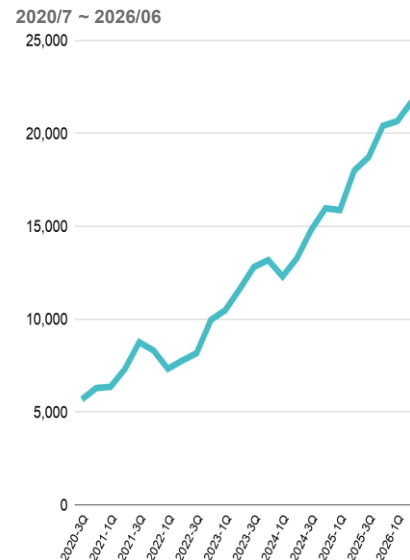


機能改善

月次課金率(四半期平均) ※2



月次ARPPU(四半期平均) ※3



※1. デジコン：デジタルコンテンツ

※2. 課金率 = 有償コイン消費ユーザー数 (UU) ÷ MAU

※3. ARPPU (Average Revenue Per Paid User) = 課金売上 ÷ 有償コイン消費ユーザー数

事業の特徴⑤:独自のサービス「ライブゲーム」

Mirrative

ミラティブが発明したライブゲームは、ゲームとゲーム実況を融合した新しい体験で、配信者のゲームプレイに介入したり一緒に遊ぶことができる。低開発費にも関わらず高ARPUを実現



特徴

低開発費／短期間開発※1

開発コスト:平均29百万円/ゲーム※2
開発期間:3-4か月

視聴者介入の課金

視聴者が配信者にアイテムギフト

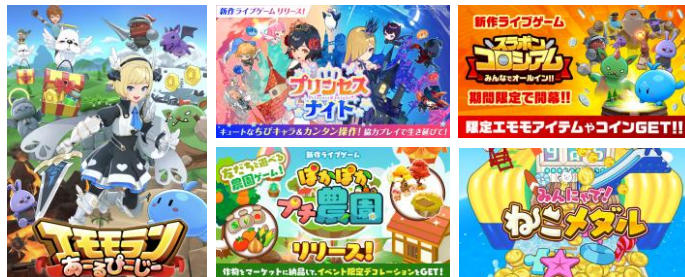
高ARPU(スラポンコロシアム)

日本のセールスランキングトップの
アプリゲームと同水準のARPU ※3

内製開発と外部開発

内製開発 + API 解放による外部開発

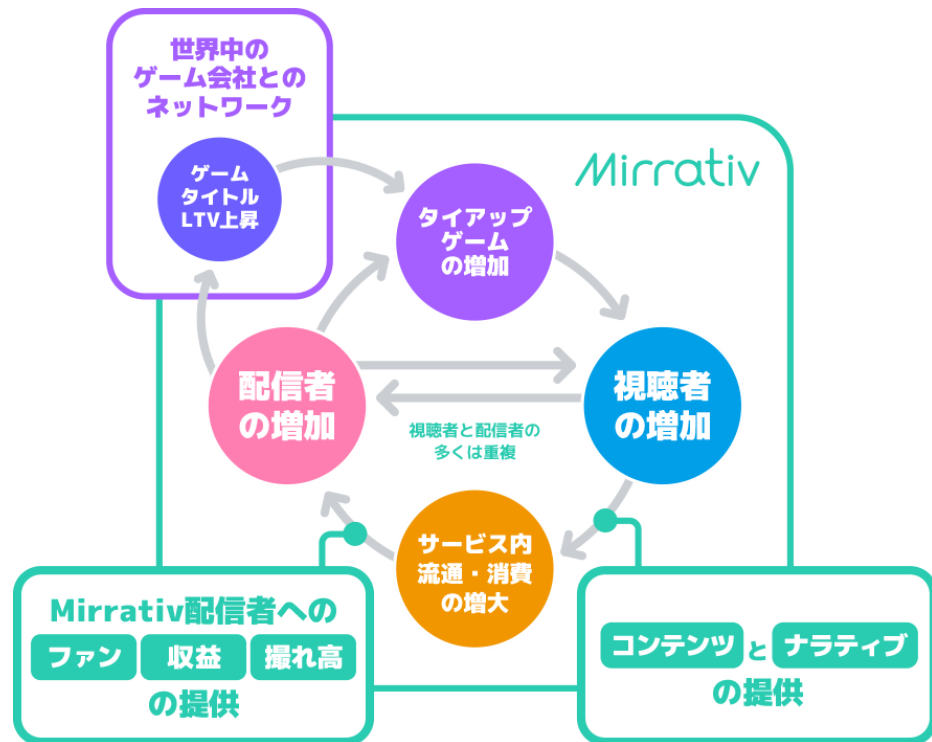
リリースタイトル



※1. 既存スマホゲームの平均開発コスト4.92億円(出典: JOGA オンラインゲーム市場調査レポート2025) ※2. 完全内製タイトル及び開発タイアップを除いたタイトルの平均開発コスト

※3. 弊社タイトル「スラポンコロシアム」における実績 (2024年8月のAppStore + GooglePlay売上Top10ゲームに、data.aiのMAUデータおよび収益データを参照して1ドル146.44円(8月当時のレート)で試算し比較)

強固な事業サイクルを持ち、長期で売上が積み上がるコミュニティプラットフォーム



Company Highlights

1 強固な事業サイクルを構築したコミュニティプラットフォーム

▶ 2 成長戦略

2-1 高エンゲージメントがもたらす安定成長と高い収益ポテンシャルを持つMirrativアプリ

2-2 Mirrativアプリのアセットを活用し、新市場を狙う中長期戦略

3 エンタメセクター新市場で安定収益を維持しながら成長投資を行う
希有な財務プロファイル

Mirrativ

既存事業のARPPU拡大と利益率向上 + アセットを有効活用した新規事業投資を推進

ミラティブ事業は安定成長・利益化期

売上向上施策

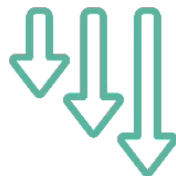


ロイヤルユーザーが
積み上がるベースの事業構造



ARPPUの向上余地が大

利益最大化施策



決済手数料やサーバー代
等、コスト改善が続く

アセットを有効活用した新規事業投資

YouTubeやTwitchなど
ミラティブ外配信者への支援

iBraid

ぶい♥きやす Rockson

Cascord

CAST CRAFT

Mirrativeで培ったノウハウ/デジコン
をMirrative外の配信者支援に活用

強固な財務基盤と経営陣の経験を活かし
M&Aや資本業務提携での拡大も推進

Company Highlights

1 強固な事業サイクルを構築したコミュニティプラットフォーム

▶ **2** 成長戦略

▶ **2-1** 高エンゲージメントがもたらす安定成長と高い収益ポテンシャルを持つMirrativアプリ

2-2 Mirrativアプリのアセットを活用し、新市場を狙う中長期戦略

3 エンタメセクター新市場で安定収益を維持しながら成長投資を行う
希有な財務プロファイル

Mirrativ

ミラティブ事業は安定成長・利益化を進めるが、他社水準と比較して改善の余地があり、
売上高・利益ともに伸びしろが期待できる

ミラティブ事業は安定成長・利益化期

売上向上施策

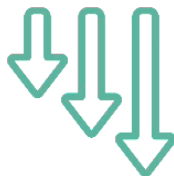


ロイヤルユーザーが
積み上がるベースの事業構造



ARPPUの向上余地が大

利益最大化施策



決済手数料やサーバー代
等、コスト改善が続く

アセットを有効活用した新規事業投資

YouTubeやTwitchなど
ミラティブ外配信者への支援

iBraid

ふい♡きやす

Rockson

Cascord

CAST CRAFT

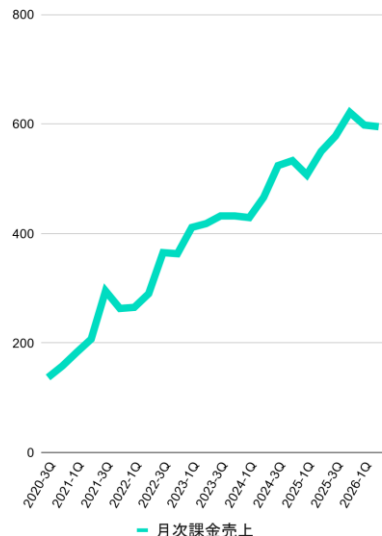
Mirrativeで培ったノウハウ/デジコン
をMirrative外の配信者支援に活用

強固な財務基盤と経営陣の経験を活かし
M&Aや資本業務提携での拡大も推進

ロイヤルユーザーの積み上がりによるARPPUの伸びが売上高成長を牽引。ARPPUの他社水準や施策の実行を考慮すると、ロイヤルユーザー数・ARPPUともに継続的な成長余地は大きい

月次課金売上高 (四半期平均)

売上高 (百万円)



— 月次課金売上

ARPPU(四半期平均)

ARPPU (円)

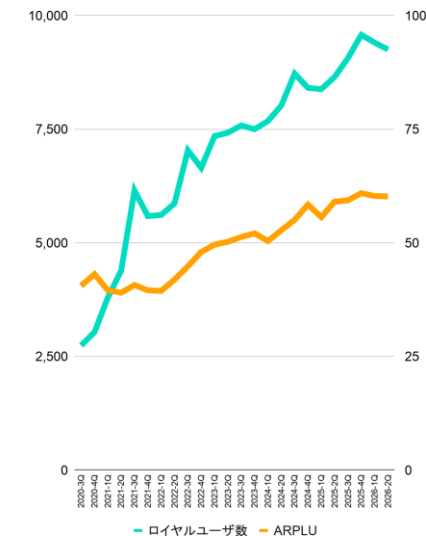


— ARPPU

月次ロイヤルユーザー数※2・ARPLU※3(四半期平均)

ロイヤルユーザー数 (UU)

ARPLU (千円)



— ロイヤルユーザー数 — ARPLU

施策

デジタルコンテンツ



3Dアバターの
部位拡張



新作
ライブゲーム



更なる
IPコラボ

マッチング・横断施策



サービス内回遊
ライブゲーム
× 3Dアバター



強い配信者
獲得

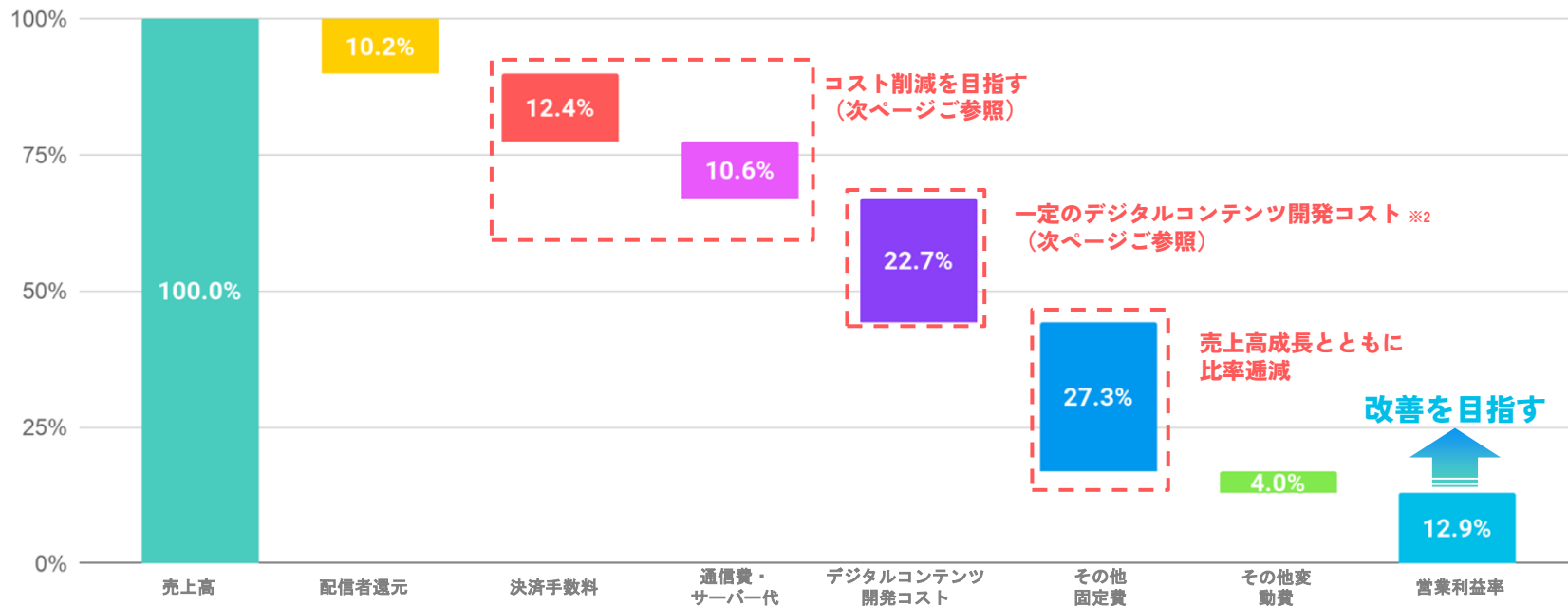
※1. 他社開示資料より。他社は視聴者がライブ配信中に配信を応援するために使用するアイテムの販売のみであると当社では認識。これに対し、Mirrativは、配信を応援するためのギフトに限らず、配信者と視聴者双方がエモモ等のアイテムを獲得できるギフトガチャや、配信者のゲーム攻略を助けるライブゲームギフト等、多様なギフトの目的を用意することによりギフト（コイン）販売の機会を多様化している

※2. ロイヤルユーザー：課金額が月額10,001円以上の有償コイン消費ユーザー数

※3. ARPLU (Average Revenue Per Loyal User) = ロイヤルユーザーにおける課金売上 ÷ ロイヤルユーザー数

固定費・変動費ともにコストサイドは改善余地が大きい

FY2026 2Q累計 コストブレイクダウン ※1



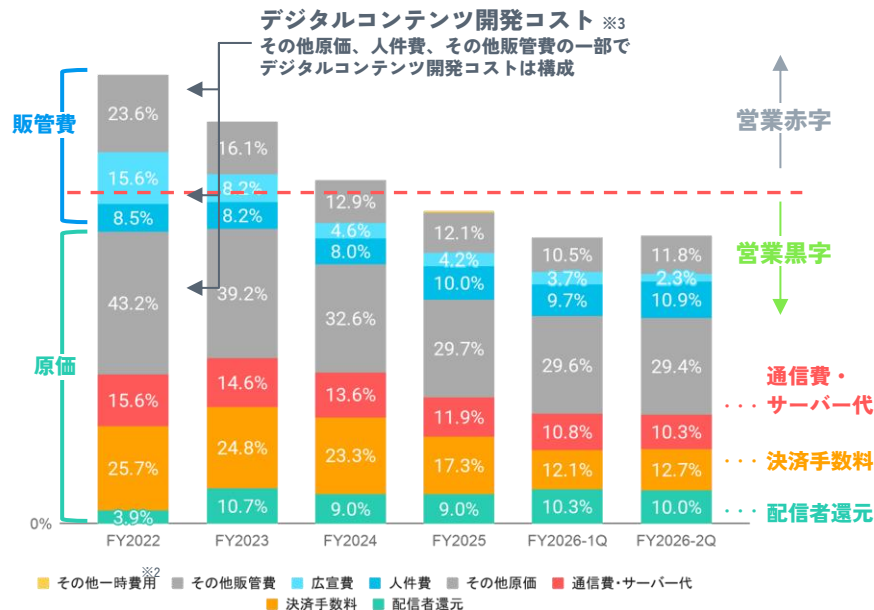
※1. ミラティブ事業単体にて作成 (FY2025より連結開始したアイブレイド社等の新規事業は含まず)

※2. デジタルコンテンツ開発コストは、Mirrativアプリにおける売上原価の一部 (QA費用、アバター製作費、業務委託費、人件費)、ライブゲームにおける売上原価の一部 (通信費、開発費、運営費、RS費用、QA費用)、販管費の一部 (給与手当、雑給与、人材派遣料、販促費、研究開発費) を含む。またデジタルコンテンツ開発コストに含まれる人件費等はプロジェクト稼働状況等に照らし合わせ、合理的に算定

収益率改善推移(単体)

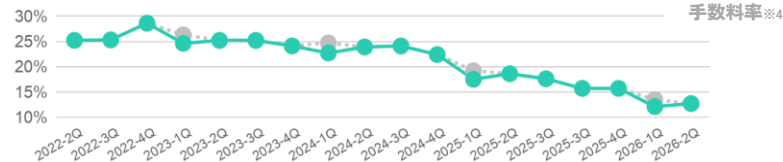
固定費性の高い収益構造に加え、決済手数料率などの変動費も改善傾向。売上高成長に伴いさらなる
マージン改善余地 ※1

マージン改善推移 ※1



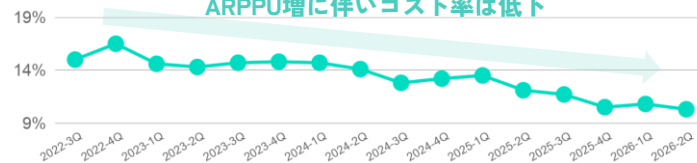
決済手数料率推移 ※4

Web決済導入等により手数料改善が継続 ● 実態決済手数料率 ※4



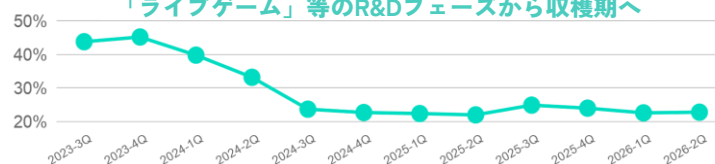
サーバーコスト率推移

ARPPU増に伴いコスト率は低下



デジタルコンテンツ開発コスト率の推移

「ライブゲーム」等のR&Dフェーズから収穫期へ



※4.毎年1Qは決済PFの年初の割引の分だけ決済手数料率は減少。グレーの点線は割引分戻入れ後の実態決済手数料率

※1. ミラティブ事業単体にて作成（FY2025より連結開始したアイブレイド社等の新規事業は含まず）

※2. 上場準備等で発生する一過性の費用

※3. デジタルコンテンツ開発コストは、ミラティブ事業における売上原価の一部（QA費用、アバター製作費、業務委託費、人件費）、ライブゲームにおける売上原価の一部（通信費、開発費、運営費、RS費用、QA費用）、販管費の一部（給与手当、雑給与、人材派遣料、販促費、研究開発費）を含む。またデジタルコンテンツ開発コストに含まれる人件費等はプロジェクト稼働状況等に照らし合わせ、合理的に算定

Company Highlights

1 強固な事業サイクルを構築したコミュニティプラットフォーム

▶ 2 成長戦略

2-1 高エンゲージメントがもたらす安定成長と高い収益ポテンシャルを持つMirrativアプリ

▶ 2-2 Mirrativアプリの資産を活用し、新市場を狙う中長期戦略

3 エンタメセクター新市場で安定収益を維持しながら成長投資を行う
希有な財務プロファイル

Mirrativ

既存事業で培った強み・アセットを横展開する新規事業の展開を開始

ミラティブ事業は安定成長・利益化期

売上向上施策

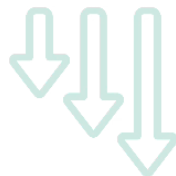


ロイヤルユーザーが
積み上がるベースの事業構造



ARPPUの向上余地が大

利益最大化施策



決済手数料やサーバー代
等、コスト改善が続く

アセットを有効活用した新規事業投資

ミラティブ外配信者への支援

iBraid

ぶい♥きやす Rockson

Cascord

CAST CRAFT

Mirrativeで培ったノウハウ/デジコン
をMirrative外の配信者支援に活用

強固な財務基盤と経営陣の経験を活かし
M&Aや資本業務提携での拡大も推進

Mirrativアプリで培ったノウハウ・コンテンツ・アセットを活用し、他プラットフォームで活躍する個人VTuber等の配信者に向けたソリューション提供を行う新規事業へ展開拡大

ミラティブ事業

Mirrativアプリで培ったアセット・ネットワーク

企業ネットワーク
(広告クライアントや協業)



ライブゲーム



エモモ
(3Dアバター)



新規事業として
YouTubeやTwitchで活躍する
個人VTuber等配信者へ
ソリューションを提供

事業コンセプトは「All for Streamers」。YouTube/Twitch/TikTokなどあらゆる配信プラットフォームの配信者(ストリーマー)にMirrativeアプリで培ったアセットを提供



配信者の

①ファン

②収益

③撮れ高

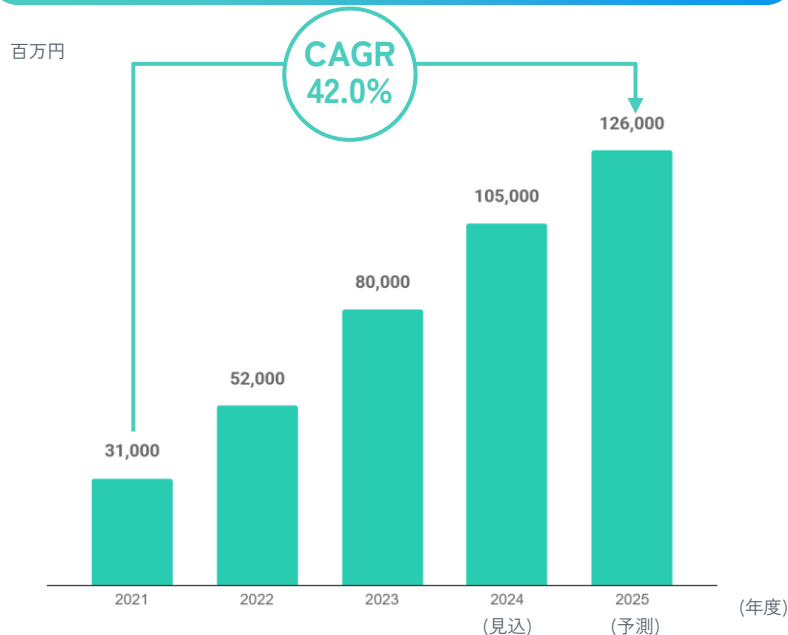
が上がるサポート

II

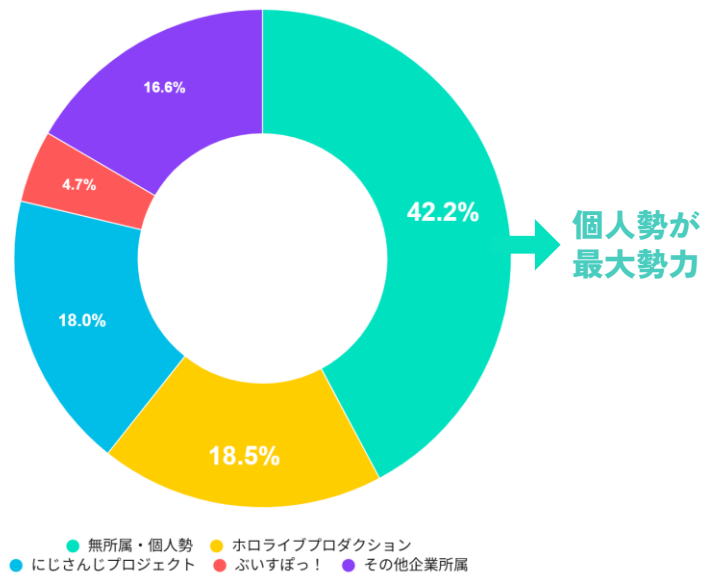
配信者とファンの間に
「ナラティブ」が生まれる支援を行う

高い成長ポテンシャルを持つ魅力的なVTuber市場。現在は個人VTuberが最大勢力に成長し、引き続き大きな市場機会が存在する

VTuber国内市場規模 ※1



VTuber 所属別視聴時間シェア ※2



※1. 矢野経済研究所「2025年VTuber市場の徹底研究～市場調査編～」より弊社作成。市場はグッズ、ライブストリーミング、BtoB、イベントの4分野を対象とする

※2. Streams Charts × VSTATS「VTubing viewership drops slightly in Q3 2025 following broadcasting dip」より弊社作成。当該サイト集計による6000超の配信者の中の視聴時間シェア

ミラティブは、アプリ事業でロングテールの個人・アマチュア配信者に向き合ってきた会社。
その経験・アセットを、YouTubeやTwitchで活動する個人VTuberにソリューションとして提供を行っていく

■個人VTuberの成長プロセス

配信環境構築/アバター準備等



良質なモデルが欲しいけど、自作はできない...制作依頼は少し高い...



高品質アバター等

配信コンテンツ企画/ファン獲得



盛り上げ方が分からない...
フォロワー増やしたいけどSNSでは限界がある...

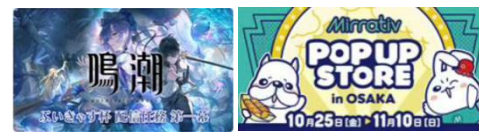


配信支援ツール

コラボイベント/企業案件獲得



収益も上げたいけど、案件の機会やネットワークがない...



マーケティング企画



エモモ(3Dアバター)



配信ノウハウ/デジタルコンテンツ



企業ネットワーク

ミラティブアセット

ミラティブ既存クライアントであるゲーム会社を中心に、インフルエンサー（KoL）マーケティングを行いたい企業とYouTubeやTwitchで活動する配信者・ストリーマーを結びつける広告キャスティングサービス



ミラティブの既存クライアントに加えて新規開拓

サービス事例



人気ゲームとのコラボ多数。VTuberイベントを企画・運営



キャスティングの他、グッズ制作/マーチャндаイズや、音楽ライブ出演のサポート等、「個人ではなかなかできない」活動を後押し

ライブゲームやガチャといった仕組みも他プラットフォーム上にてVTuberとトライアル実施。
Mirrativeアプリで開発した資産の横展開を推進

Mirrativeアプリで開発したコンテンツを...



Mirrative外の配信者・ストリーマーが
YouTubeやTwitch上でも遊べるような
横展開を積極的にR&D中

VTuber向け配信ツール：CastCraft

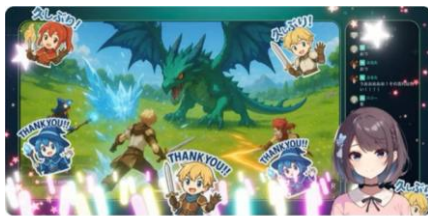
Mirrative

VTuberの配信の魅力を更に引き出す配信支援ツールとして、1万4000人以上のアクティブ配信者※1を獲得
VTuberへの当社コンテンツや広告案件の周知・連携窓口としての活用も企図

特長:YouTubeやTwitchの配信者支援

月次稼働チャンネル数推移 ※2

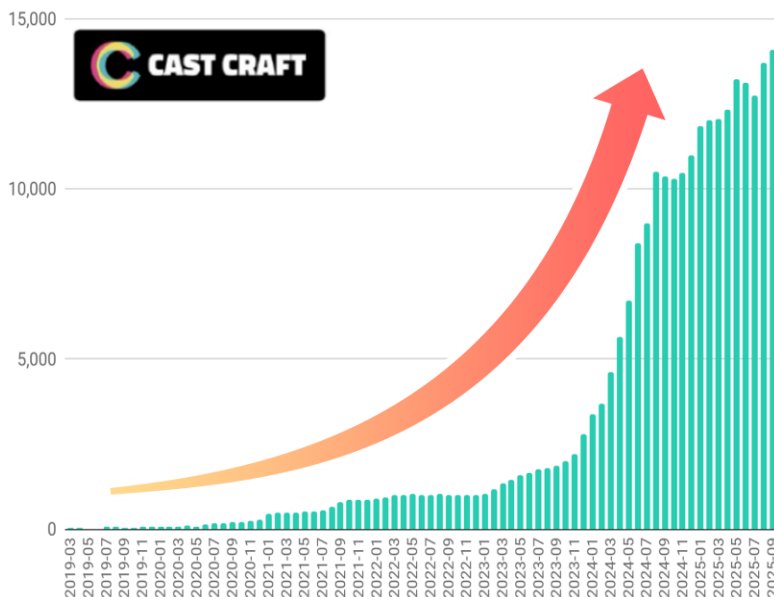
Mirrativeのアセット



OBS Studioなど主要配信ソフトに対応
特定のコメントに反応するエフェクトなど
多彩な機能



視聴者のデータ分析が可能な独自CRM機能



横展開を想定



Mirrativeで培った
配信を盛り上げるノウハウ



エモモなどの蓄積された
デジタルコンテンツ

※1. アクティブ配信者：当サービスを当月に一度でも活用して配信を行った配信者数（2025年9月時点）

※2. YouTube及びTwitchでの稼働チャンネル数（2019年3月～2025年9月）

引き続きM&Aや資本業務提携も含めて、個人VTuberを中心に配信者支援サービスの拡張を進めていく

ミラティブで
継続展開



ゲーム会社連携



エモモ(3Dアバター)



ライブゲーム

M&A、
グループ展開



配信者/ストリーマーが
日常的に使う配信支援ツール



広告案件提供



音楽ライブ

協業



ポップアップストア



グッズ制作等



配信者向けfintech領域
(推し活カード)

Company Highlights

1 強固な事業サイクルを構築したコミュニティプラットフォーム

2 成長戦略

2-1 高エンゲージメントがもたらす安定成長と高い収益ポテンシャルを持つMirrativアプリ

2-2 Mirrativアプリのアセットを活用し、新市場を狙う中長期戦略

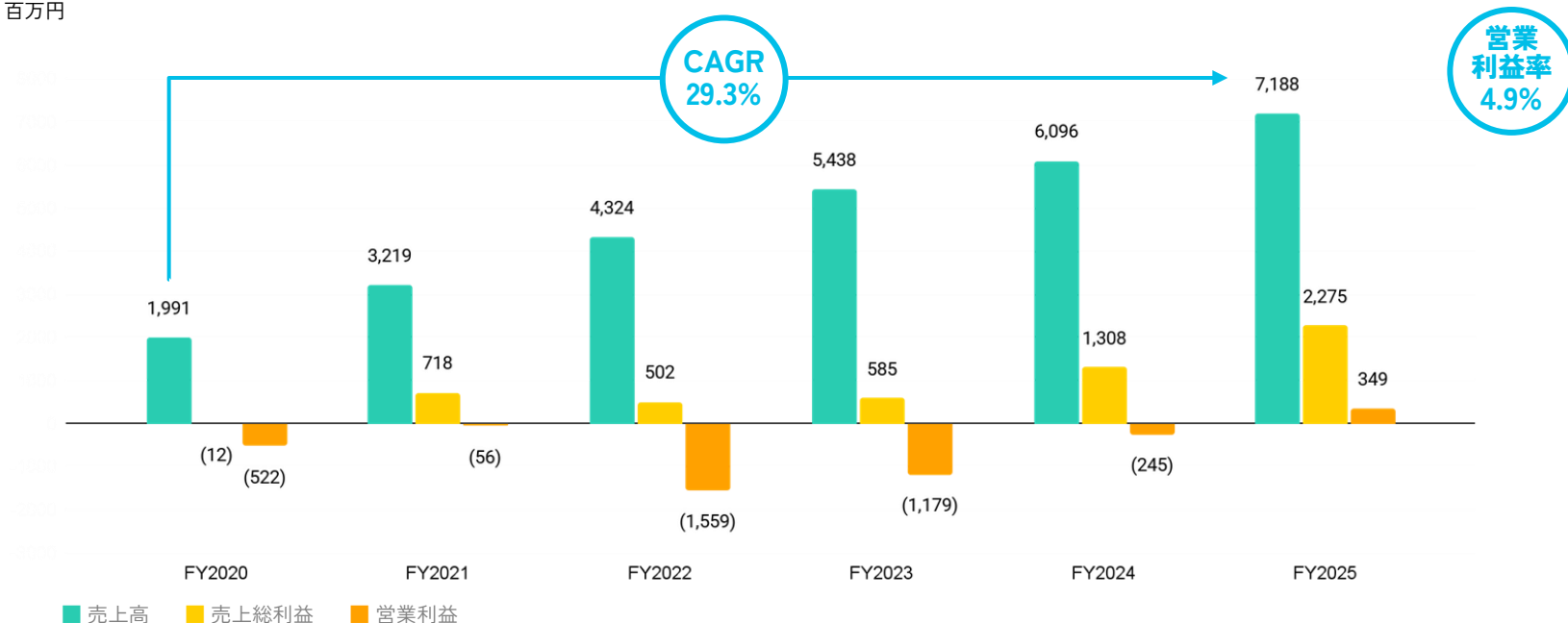
▶ **3** エンタメセクター新市場で安定収益を維持しながら成長投資を行う
希有な財務プロファイル

Mirrativ

着実な売上高成長を遂げ、利益創出フェーズに移行。新規事業投資は既存アセット活用により効率的に行うことで、事業探索と利益成長の両利きの経営を実現

売上・売上総利益・営業利益推移（年間ベース）※1

百万円



※1. FY2024までは単体ベース、FY2025より連結ベース

蓄積されたノウハウ・ケイパビリティを元にMirrativeプラットフォームにとどまらない事業拡大

連続的な
新規事業ローンチ

+

M&A・資本提携
実績



Mirrative内にとどまらない
事業拡大



スマホでゲーム実況



3Dアバター
エモモ



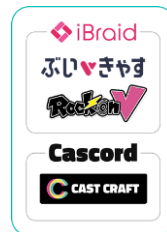
配信リンク・
配信視聴キャンペーン



アバターカラオケ配信
エモカラ



視聴者参加型ゲーム
ライブゲーム



M&A・
資本業務提携

Mirrative

免責事項

本プレゼンテーション資料は、関連情報の開示のみを目的として株式会社ミラティブ(以下「当社」といいます。)が作成したものであり、米国、日本国又はそれ以外の一切の法域における有価証券の買付け又は売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。米国、日本国又はそれ以外の一切の法域において、適用法令に基づく登録若しくは届出又はこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集又は販売を行うことはできません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」又は「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更又は訂正する一切の義務を当社は負いません。本プレゼンテーション資料に記載されている当社以外の企業等に関する情報及び第三者の作成に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、そのデータ・指標等の正確性・適切性等について、当社は独自の検証は行っておらず、何らその責任を負うことはできません。

事業計画及び成長可能性に関する事項の開示時期について

当社は事業計画及び成長可能性に関する事項について、毎年事業年度末から3か月以内に開示を行う予定です。

事業計画及び成長可能性に関する事項について変更等が生じた場合は速やかに開示いたします。

Appendix

Mirrative



P/Lサマリー ※1

百万円	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026 Q2累計
売上高	4,324	5,438	6,096	7,188	3,825
年率成長率	34.3%	25.7%	12.1%	17.9%	12.6%
売上総利益	502	585	1,308	2,275	1,418
対売上高比率	11.6%	10.8%	21.5%	31.7%	37.1%
営業損益	(1,559)	(1,179)	(245)	349	485
対売上高比率	--	--	--	4.9%	12.7%
当期純損益	(1,565)	(1,192)	(259)	739	422
対売上高比率	--	--	--	10.3%	11.1%

※1. FY2024までは単体ベース、FY2025より連結ベースにて記載

KPIサマリー ※1

	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026 Q2累計
ロイヤルユーザー数(人)※2	6,288	7,460	8,205	8,915	9,325
ARPLU(円)※3	43,503	50,765	54,115	58,716	60,216
ARPPU(円)※4	8,308	12,019	14,088	18,247	21,174

※1. 各年度の平均値

※2. ロイヤルユーザー：課金額が月額10,001円以上の有償コイン消費ユーザー

※3. ARPLU (Average Revenue Per Loyal User) = ロイヤルユーザーにおける課金売上 ÷ ロイヤルユーザー数

※4. ARPPU (Average Revenue Per Paid User) = 課金売上高 ÷ 有償コイン消費ユーザー数

ロイヤルユーザー数・ARPLU推移※1

ロイヤルユーザー数 ※2

(人)	Q1	Q2	Q3	Q4	通期
FY2022	5,610	5,864	7,032	6,648	6,288
FY2023	7,344	7,420	7,579	7,497	7,460
FY2024	7,675	8,018	8,721	8,405	8,205
FY2025	8,377	8,646	9,064	9,573	8,915
FY2026	9,400	9,250	-	-	-

ARPLU ※3

(円)	Q1	Q2	Q3	Q4	通期
FY2022	39,385	41,883	44,808	47,936	43,503
FY2023	49,568	50,195	51,258	52,040	50,765
FY2024	50,360	52,709	55,012	58,380	54,115
FY2025	55,633	59,025	59,319	60,887	58,716
FY2026	60,264	60,167	-	-	-

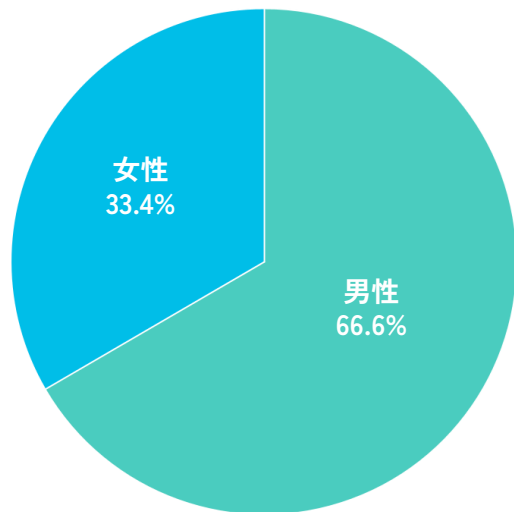
※1. 各四半期における月次平均数値

※2. ロイヤルユーザー：課金額が月額10,001円以上の有償コイン消費ユーザー

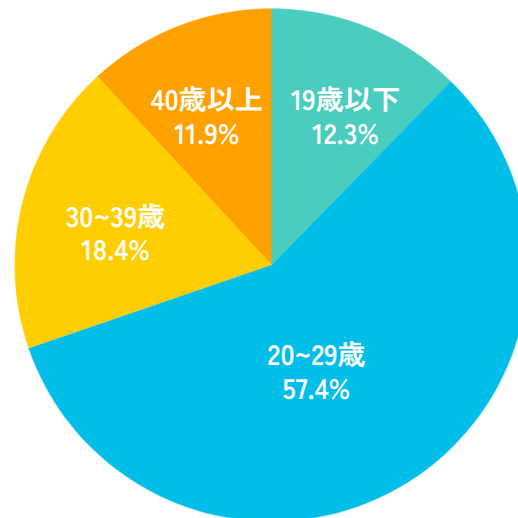
※3. ARPLU (Average Revenue Per Loyal User) = ロイヤルユーザーにおける課金売上 ÷ ロイヤルユーザー数

Mirrativeユーザーについて

男女比率 ※1



年齢層 ※1



※1. 2025年12月の弊社内データをもとに作成

プラットフォームの健全性に対する取り組み

トピック

主な取組内容

未成年者の保護

- ・ 12歳以下ユーザーの利用禁止
- ・ 17歳以下ユーザーに対するダイレクトメッセージ機能の利用制限
- ・ 17歳以下ユーザーに対する課金上限の導入
- ・ ミラティブコイン購入時の未成年者への注意喚起

サービス監視体制

- ・ 当社が定めた基準に従い、アウトソーシング（外部委託）の活用による24時間365日の監視体制を構築
- ・ ユーザーからの報告に基づき、違反行為に対する対応を実施
- ・ 配信音声のテキスト監視を実施

配信者の保護

- ・ 誹謗中傷や、公序良俗に反する発言等を防ぐことを目的に、NGワードを設定し、表示がされない仕組みの導入
- ・ 配信者が指定したユーザーをブロックすることにより、ブロックされたユーザーが配信を見たり、ダイレクトメッセージ等を送ることが出来なくなる機能（ブロック機能）の導入
- ・ 配信者が配信中に特定の視聴者を配信から退出させることが出来る機能（キック機能）の導入
- ・ 配信者が、配信中に特定の視聴者を指名すると、その視聴者はキック機能を利用出来るようになり、他の視聴者を配信から退出させることが出来る機能（モデレーター機能）の導入

著作権保護対応

- ・ 配信動画に関するゲーム会社からの許諾取得
- ・ 許諾取得済の配信動画以外に対するチェックリストガイドラインの制定及びチェックの実施
- ・ 相談窓口の設置
- ・ ユーザーへの啓蒙活動

ユーザーへの啓蒙活動

- ・ 配信を始めるユーザーに対して、SMSやメールの通知等が配信中の画面に映りこまないような設定を促す注意喚起のためのポップアップの表示
- ・ 配信ガイドライン及びMirrativ利用規約において、禁止事項を明確にし、ユーザーに周知徹底するための啓蒙活動を継続的に実施

主たるリスク要因

トピック	顕在化可能性	影響度	時期	主な取組内容
業界の成長性	低～中	大	未定	当社グループはスマホゲーム市場に属しつつ、新たなゲーム体験を提供する「ライブゲーミング市場」を創造していると認識しており、スマホの全世代における普及やインターネット環境の高速化・低価格化等を背景に当該市場は今後拡大することが見込まれます。しかしながら、新市場であることから今後の法規制、国内外の経済状況、個人の嗜好性等の変化に大きな影響を受ける可能性があり、当該市場及び関連する市場の成長が鈍化した場合、ロイヤルユーザー数、ARPLU、ARPPU、ライブゲーミングの売上等が拡大しない可能性があり、又は予測できない事情によりミラティブ事業の成長が実現しない可能性もあり、このような場合は当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。
他社運営のプラットフォーム及びスマホゲーム等への依存	低	大	未定	「Mirrativ」は、Apple Inc.及びGoogle LLCといったプラットフォーム運営事業者を介して一般ユーザーに提供されており、かかるプラットフォーム事業者より課されるアプリ内課金における条件・ルール・手数料等の変更もしくは事業方針の変更、それらの運用にかかる当社グループのコスト増、又は当社グループが予測困難な変更等により従来通り当社グループのスマートフォン用アプリの提供ができなくなり、これらの事業者との契約継続が困難となった場合、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。なお、2025年12月に「スマートフォンにおいて利用される特定ソフトウェアに係る競争の促進に関する法律」が施行されるなど、国内外においてプラットフォーム事業者に対する法的な規制整備が進められております。また、「Mirrativ」内のゲーム配信にあたっては、ゲーム会社の配信ガイドライン等を遵守することが求められており、ゲーム会社の方針変更等により「Mirrativ」での配信の継続が困難となった場合、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。
サービスの健全性	中	中	未定	「Mirrativ」での配信の安全性及び健全性確保のため、様々な対策を講じておりますが、第三者の権利を侵害する行為、権利侵害等の法令違反行為等が行われた場合や、プラットフォームの安全性及び健全性が確保できない場合には、当社グループ及び当社グループが提供するサービスに対する信頼性が低下し、ユーザーの離反につながる可能性、プラットフォーム提供者としての責任を問われる可能性、企業イメージ、提供するサービスのブランドイメージ、信頼性の毀損、ひいては当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。またユーザーによる音楽の利用及びその著作権については、一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）及び株式会社NexToneからの許諾を受けておりますが、今後において同許諾条件の変更又は新たな権利許諾等が必要となる場合、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。
特定サービスへの依存	中	中	未定	当社グループの事業はミラティブ事業の単一セグメントであり、当社グループの売上高は、「Mirrativ」プラットフォームにおける視聴ユーザーがギフトを送る際に使用するアイテム等の販売による割合が高く、同プラットフォームによる売上に依存しております。今後も機能拡充や新規事業開発等により、売上拡大していくものと考えておりますが、新たな法規制の導入や改正、その他予期せぬ要因により、想定通りに事業成長が進まない場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。
M&A及び業務提携	中	中	未定	当社グループは、企業価値向上を目的とした成長の実現に有効な手段の一つとして、企業買収（M&A）及び資本業務提携等を検討していくことを方針としております。M&A及び資本業務提携の検討にあたっては、事業戦略との整合性やシナジーを勘案して対象企業の選定を行い、デューデリジェンスを実施した上で、取締役会において慎重に議論を行った上で判断しております。しかしながら、事業の状況が当社グループに与える影響を確実に予想することは困難な場合もあり、財務状況の悪化等により期待した効果を実現できない場合には、のれんの減損が発生するなどにより、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。
資金決済に関する法律	低	中～大	未定	「Mirrativ」にて利用されているMirrativコインについて同法が適用されます。このため、当社グループは、同法に定める届出義務、報告義務、供託義務等を同法に基づき適切に履行しております。よって、当社グループは、本書提出日現在において同法、府令等の関連法令に基づく命令には抵触していません。しかしながら、今後、当社グループがこれらの関連法令に抵触した場合、同法に基づく業務停止命令や届出取消し等の行政処分等を受けることも想定され、このような場合には当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

※ 上記以外のリスクについては、有価証券報告書における「事業等のリスク」をご覧ください。